

目次

文法 C2F.....	1
アカデミック日本語 C1F 01 組.....	3
アカデミック日本語 C2F.....	5
会話 B2F.....	7
口頭表現 C2F.....	9
Japanese Business Manner.....	11
沖縄の歴史Ⅱ.....	12
Okinawan Culture I.....	14
Basic Japanese I.....	17
読解 A.....	21
読解 B2F.....	22
会話 A.....	24
漢字 A.....	26
Okinawan History I.....	27
日本語 B1.....	30
文法 A.....	32
ビジネス日本語Ⅱ.....	33
日本の文化Ⅱ.....	35
日本語 A.....	37
文法 B1.....	40
読解 C2F.....	42
会話 B1.....	44
Japanese History I.....	46
文法 B2F.....	49
日本文学作品鑑賞Ⅱ.....	50
アカデミック日本語 C1F 02 組.....	52
漢字 B1.....	54
聴解 C1F.....	55
口頭表現 C1F.....	57
聴解 B2F.....	59
作文 B1.....	60
ビジネス日本語 I.....	62
文法 C1F.....	64
読解 B1.....	66
読解 C1F.....	67
会話 C1F.....	69

科目番号	日 108
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105411002
科目名[英文名]	文法 C2F
単位	2
担当教員コード	

担当教員[ローマ字表記]	名嶋 義直
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法	
【内容】日本語を文法面から分析し文法について考える。 授業は日本語で行う。	
【方法】事前学習として教科書を予習する。 教室で教員の解説を聞き、ポイントを確認する。 教科書の問題をグループで考える。 全体で議論し、理解を深める。 事後学習として授業を振り返り、発展的な学習を主体的に行う。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性	
達成目標	
1. 日本語文法に関する知識を増やすことができる。[地域・国際性][専門性]	
2. 他者の意見や主張を受け止めて議論し、考えを深めることができる。[地域・国際性][専門性] [コミュニケーション・スキル][社会性]	
3. 日本語教育において文法をどのように教えたら良いか考えることができる。[地域・国際性][問題解決力]	
4. 文法教育という観点から初級文型を教える際のポイントを整理することができる。[地域・国際性][専門性]	
評価基準と評価方法	
1. 予習: 20 %	
2. 出席: 20 %	
3. 授業中の取り組み: 20 %	
4. レポート: 40 %	
以上を目安に総合的に評価する。 レポートは「自分のための文法参考書を作る」予定である。	
履修条件	
・特になし。	
・予習も含めて教科書を使う授業なので必ず購入して参加すること(教科書のない人は受講を認めない)。	
・授業中にグループワークを行うので、積極的に参加すること。	
・前期の授業では教科書の半分まで進み、後半は後期に学ぶ予定である。	
・したがって、後期開講の日本語教材研究Ⅱも履修することが望ましい。	
授業計画	
1回目: オリエンテーション	
2回目: 5章	
3回目: 5章	
4回目: 5章	
5回目: 5章	
6回目: 6章	
6回目: 6章	
7回目: 6章	
8回目: 6章	

9回目:7章 10回目:7章 11回目:7章 12回目:7章 13回目:7章 14回目:まとめ 15回目:まとめ
事前学習 ・教科書(指定された範囲)の予習
事後学習 ・当日授業分の復習とそれぞれの問題意識に即した発展学習。
教科書にかかわる情報 『ここからはじまる日本語文法』森山卓郎 ひつじ書房 2000 4-89476-174-2
教科書全体備考
参考書にかかわる情報
参考書全体備考 適宜授業で紹介。
使用言語 日本語
メッセージ ・教科書は、前期に4章まで学習済み、後期は5章と6章、7章の一部を勉強します。 ・日本語教育副専攻課程の日本人学生といっしょに学ぶ授業です。 ・授業は日本語で行います。
キーワード
オフィスアワー 随時。ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。
メールアドレス najimay@eve.u-ryukyu.ac.jp

科目番号	日 406
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105430012
科目名[英文名]	アカデミック日本語 C1F 01 組
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	中川 麻美
授業の形態 講義、演習又は実験	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	

- ・主にレポート作成の基礎を身につける。
- ・よく使われる語彙や表現、型やルールを知り、実際に運用できるようにしながら様々な文章を書いていく。
- ・自分の作成した文章をクラスメイトと一緒に見ながら検討するなどの活動を通して、推敲や修正の技術を高める。

URGCC 学習教育目標

自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力

達成目標

- ・レポート作成の方法がわかり、運用できる。[自律性][問題解決力][地域・国際性]
- ・自分の作成した文章を推敲、修正できる。[情報リテラシー][コミュニケーションスキル][自律性]
- ・論理的な説明で相手を納得させる文章を書くことができる。[コミュニケーションスキル][情報リテラシー]

評価基準と評価方法

課題の提出 40%

発表 30%

クラス活動・参加度 30%

履修条件

授業計画

1. オリエンテーション, 作文のための基本事項①
2. 作文のための基本事項②
3. 作文のための基本事項③
4. 作文のための基本事項④
5. テーマを述べる
6. 理由・経過を述べる
7. 定義をする
8. まとめ
9. 判明していることを述べる
10. 問題点を述べる
11. 引用する
12. 解決策を述べる
13. 手順を述べる
14. 指示詞を使う
15. まとめ、ふりかえり

事前学習

宿題、課題を仕上げ、授業に臨んでください。

事後学習

授業中に終わらなかったタスクがあれば、完成させてください。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

授業ではプリントを配付します。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

キーワード
オフィスアワー 金曜日13:00- 2F 非常勤講師室
メールアドレス asanakagawa @ gmail.com

科目番号	日 408
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105432002
科目名[英文名]	アカデミック日本語 C2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	ケリ 綾子

授業の形態 演習又は実験
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する
授業内容と方法 書く・調べる・発表するなどのアカデミック スキルズのトレーニングをします。 アンケート調査をして、論文、レポートを作成するために必要な事項を学びます。 日本語を意識してみると、色々と思ったり、本当なのかと考えたりすることがあります。このクラスでは、気になる日本語についてアンケート調査をし、結果を集計し、分析をします。そして、それを発表します。 アンケートの作り方、分析の仕方や発表を聞いて質問する時に注意することなどを学びます。 グループで調査をします。
URGCC 学習教育目標 自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー
達成目標 ①日本語に注目して、どこが気になるのかを話すことができる[自律性][コミュニケーション・スキル] ②他の留学生の考えを聞き、参考にしながら自分の考えを進めることができる[地域・国際性] ③答えやすいようにわかりやすい文章を使ってアンケート調査票を作ることができる[情報リテラシー][自律性] ④グループで協力しアンケート調査の活動を進めることができる[コミュニケーション・スキル][社会性] ⑤調査の結果を分析し、自分の意見でまとめることができる。[自律性][コミュニケーション・スキル] ⑥調査の結果を発表し、わかったこと、考えたことをわかりやすく伝えることができる。[コミュニケーション・スキル]
評価基準と評価方法 プロジェクトワーク・発表 50% (達成目標①③④⑤⑥)

宿題、提出物等 20% (達成目標④⑤)

教室活動 30% (達成目標①②④⑤)

履修条件

- ・プレースメントテストを受験し、中級中盤(B2)以上のレベルの日本語科目の受講が認められたもの。
- ・日本語で準備(じゅんび)なしに日常的なディスカッションができること。
- ・準備すれば少し抽象的(ちゅうしょうてき)なテーマについても意見交換(いけんこうかん)ができること。
- ・協働学習(きょうどうがくしゅう)に積極的(せっきよくてき)に参加する意志(いし)があること。

授業計画

- 1回目 オリエンテーション プロジェクトワークの目的
- 2回目 新聞記事を通して、アンケート結果の書き方を学ぶ
- 3回目 プロジェクトワークについて 調査方法、アンケートの作り方、グループ分け、トピック決定
- 4回目 敬語 メール文 文体 文章の書き方
- 5回目 アンケート質問事項の作成
- 6回目 クラス内で試しアンケート
- 7回目 発表の仕方
- 8回目 アンケート項目別に予測を立てる
- 9回目 アンケート集計、考察
- 10回目 レジユメの作り方 発表準備
- 11回目 質疑応答の仕方、発表評価の記入の仕方 発表練習
- 12回目 発表(1)
- 13回目 発表(2)
- 14回目 発表(3)
- 15回目 発表を聞いて分かったこと、調査、発表をして気づいたことについて(振り返りプリント記入とディスカッション)
- 16回目 振り返りとまとめ

事前学習

教室で配布されたプリントを読んできてください。

事後学習

アンケート調査をします。
授業中に終わらなかったタスクがあれば、完成させてください。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

教室で教材を配布します。

参考書にかかわる情報

『ピアで学ぶ 大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視(じゅうし)のレポート作成』大島弥生(おおしまやよい)他 ひつじ書房 2014
アカデミック プレゼンテーション 入門 三浦香苗 岡澤孝雄 深澤のぞみ ヒルマン小林恭子 ひつじ書房 2009
プラクティカル・プレゼンテーション 上村和美 内田充美 くらしお出版 2005

参考書全体備考

参考になる資料について、授業時に配布またはおしらせします。

使用言語

日本語

メッセージ グループ活動を中心として、授業が進みますので、全回出席するようにしてください。 クラスでディスカッションをしたり、グループで調査を進めるので、協力して活動を進めようという意欲と積極性を持っている学生の受講を歓迎します。
学生の理解度や進み具合によって、講義進度を変更することがあります。
キーワード
オフィスアワー 必要に応じて設定しますので、申し出てください。
メールアドレス 1回目の授業でお知らせします。

科目番号	日 504
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105436002
科目名[英文名]	会話 B2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	真島 知秀
授業の形態 講義 アクティブラーニング	
授業内容と方法 テーマごとの CD の聞き取りを行いながらシチュエーションをよく理解した上で様々な質問に答えていく。 モデル文を参考にロールプレイを行いながら自分の考えを表現にする。	
【CD 聴解／ディスカッション／ペア活動】	
URGCC 学習教育目標 自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標 1. 日本や自国の文化について、両者を比較しながら、日本語で簡単な紹介とディスカッションができるようになる。[コミュニケーション・スキル] 2. クラスメートの発表を注意深く聞き、的確な質問やコメントができるようになる。[コミュニケーション・スキル] 3. 自分の文化体験について振り返り、その意義、感想、意見が述べられるようになる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル] 4. 自国や日本の文化について、自分で調べ、正しい情報が選択できるようになる。[自律性]	
評価基準と評価方法 授業参加度 50% 期末テスト 30% 課題提出 20%	

履修条件

規定の日本語理解力チェックテストを受験し、規定の点数に達している者。

授業計画

- 第1週 出会い／名のる①
- 第2週 出会い／名のる②
- 第3週 うわさ／聞いた話を切り出す・情報に反応する①
- 第4週 うわさ／聞いた話を切り出す・情報に反応する②
- 第5週 機械のトラブル／能力について述べる・申し出る①
- 第6週 機械のトラブル／能力について述べる・申し出る②
- 第7週 電話をかける／用件を伝える・伝言をする①
- 第8週 電話をかける／用件を伝える・伝言をする②
- 第9週 趣味／誘う・誘いに興味(がないこと)を示す①
- 第10週 趣味／誘う・誘いに興味(がないこと)を示す②
- 第11週 健康のために／相手にいいと思うことを教える①
- 第12週 健康のために／相手にいいと思うことを教える②
- 第13週 抱負／抱負を述べる・励ます・応援する①
- 第14週 抱負／抱負を述べる・励ます・応援する②
- 第15週 まとめ

第16週 期末テスト

事前学習

事前に次のテーマのプリントを配布するので、単語の意味を辞書で引いておくこと。

事後学習

授業中に理解できなかった語彙や表現は意味を確認しておくこと。

教科書にかかわる情報**教科書全体備考**

担当教員が学習進度に合わせたプリントを作成し配布する。

参考書にかかわる情報

日本語生中継：聞いて覚える話し方(初中級編2) ボイクマン総子, 宮谷敦美, 小室リー郁子 共著, くらしお出版 2006 978-4874243701

参考書全体備考

上記書籍等を参考に、学習進度に合わせたプリントを作成し配布する。

使用言語

日本語

メッセージ

自分の意見を述べるのは勿論、周りの人の考えもよく聞いてコミュニケーション能力を高めましょう。
事前・事後学習で分からない単語を辞書で確認しておきましょう。
授業中はなるべく辞書に頼らず、自分なりの表現で発言してみましょう。

キーワード**オフィスアワー**

水曜日 15:00～
2階非常勤講師室<207号>

メールアドレス

majima215@gmail.com

科目番号	日 704
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105448002
科目名[英文名]	口頭表現 C2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	元山 由美子
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法	
討論や発表を行う。	
①討論 立場を決めて自分の意見を述べる。 質疑応答、コメント、振り返りをする	
②アンケート調査結果発表 興味・関心のある課題を選択し、テーマを決める。 その後、アンケートを行い、アウトラインを考える。 原稿を作成するなど発表資料の準備を整え、発表する。 発表後は質疑応答、コメント、振り返りをする。	
URGCC 学習教育目標	
達成目標	
①自分の専門やよく知っている話題についてパワーポイントを用いて資料を作成し、簡潔に発表することができる。[コミュニケーション・スキル][自律性]	
②相手に自分の考えや意見が伝わる話し方ができる。[社会性][自律性][コミュニケーション・スキル]	
③話の流れを理解し、建設的な態度で話し合ったり、司会をしたりすることができる。[コミュニケーション・スキル][自律性]	
④図表の作成、説明・分析ができる。[情報リテラシー]	
⑤根拠を示して意見を述べたり、提言したりすることができる。[コミュニケーション・スキル]	
⑥フォーマルな場面にふさわしい適切な表現が使える。[社会性][コミュニケーション・スキル]	
⑦多角的な視点で異なる価値観を理解し、受け入れることができる。[自律性][地域・国際性]	
⑧聞き手として、他者から出された意見について、適切な表現で同調や反論を行うことができる。 [コミュニケーション・スキル][社会性]	
評価基準と評価方法	
・授業への参加/貢献度 40%	
・発表 40%	
・提出物 20%	
履修条件	

プレースメントテストを受け、受講が認められた者。
準備すれば少し抽象的なテーマについて意見交換ができること。
この授業をとる学生は、オリエンテーションに必ず参加し、自分のレベルにあっているか、しっかり予習や発表準備をすることができるか考えてから、登録してください。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 プレゼンテーション(自己紹介)
- 第3回 討論
- 第4回 発表テーマを決める
- 第5回 アンケートをする(1)実施計画
- 第6回 アンケートをする(2)アンケート票作成
- 第7回 アンケートをする(3)調査実施
- 第8回 アンケートをする(4)予測を立てる
- 第9回 アンケートをする(5)表やグラフを読む
- 第10回～第11回 発表資料準備
- 第12回 発表練習
- 第13回～第15回 発表
- 第16回 課題提出、まとめ

* 受講生の人数や希望により内容を変更することもある。

事前学習

- ・情報・データの収集
- ・発表原稿の作成
- ・プレゼンテーションのための資料準備は授業中にも行うが、授業中に完了しなかった作業を課題として課す場合がある。

事後学習

- ・話し合いのフィードバックを行う。
- ・ディスカッション終了後、自分の意見を書いて提出すること。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

プリント配付

参考書にかかわる情報

日本語口頭発表と討論の技術：コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために 東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会著 東海大学出版会 1995 4-486-01354-9
大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 銅直信子, 坂東実子著 国書刊行会 2013 978-4-336-05644-3

参考書全体備考

必要に応じて紹介する。

使用言語

日本語

メッセージ

- ・国際関係、政治や経済、環境問題、教育など現代社会の諸問題に興味や関心を持ち、それらの問題について母語でも触れておきましょう。議論をしようにも議論の前提となる知識や語彙がなければその議論に加わることはできません。
- ・沖縄の交通事情など日常生活の諸問題にも関心を持ちましょう。

・担当教員から説明やアドバイスがありますが、あくまでも履修者が主体となって行います。

キーワード

オフィスアワー

火曜日 13:00～15:00

メールで連絡して予約すること。

メールアドレス

yumimoto3@gmail.com

科目番号	日 801
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 5
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105449002
科目名[英文名]	Japanese Business Manner
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	高江洲 由美子
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	
このクラスでは、日系企業や日本のビジネス現場で身に着けておきたいマナーの基本を学習します。また、名刺を使って自己紹介する練習や、企業訪問や接客などのロールプレイも行います。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
1、日本のビジネスマナーやビジネスの基礎知識身に着けることができる。〔地域・国際性〕〔自律性〕	
2、ビジネス現場ですぐ役立つ簡単な会話表現や電話の応対などができるようになる。〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕	
評価基準と評価方法	
授業参加度:	30%〔達成目標1, 2の評価〕
課題提出:	10%〔達成目標1の評価〕
ロールプレイ:	30%〔達成目標1, 2の評価〕
ロールプレイテスト:	30%〔達成目標1, 2の評価〕
合計:	100%
履修条件	
このコースは英語で授業が行われるため、英語が理解できること。	
授業計画	
1、オリエンテーション、自己紹介	
2、あいさつの基本	
3、身だしなみ	
4、入室・退室	

- 5、話し方、敬語の使い方
- 6、整理整頓、携帯電話のマナー
- 7、社会人のエチケット
- 8、名刺
- 9、接客・訪問
- 10、接待・会食
- 11、席次
- 12、ロールプレイ
- 13、電話対応
- 14、日本のマナー
- 15、ビジネスEメール
- 16、ロールプレイテスト

事前学習

教科書を読んで予習しておく。

事後学習

学習した内容について整理し、まとめる。

教科書にかかわる情報

『しごとの日本語』 釜淵優子 アルク

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

英語

メッセージ

キーワード

オフィスアワー

随時(メールでアポイントを取ってください)

メールアドレス

ytakaesu1152000@yahoo.co.jp

科目番号	日 926
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105456002
科目名[英文名]	沖縄の歴史Ⅱ
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	北上田 源
授業の形態	

講義

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

- ・沖縄(おきなわ)に人(ひと)が住(す)み始(はじめ)めた時代(じだい)～琉球(りゅうきゅう)王国(おうこく)の時代(じだい)について学(まな)びます。
- ・この授業(じゅぎょう)では、教室(きょうしつ)での講義(こうぎ)や、現地(げんち)の見学(けんがく)等(など)を通(とお)して、各時代(かくじだい)の特徴(とくちょう)を学習(がくしゅう)します。
- ・ただ、歴史(れきし)を学(まな)ぶ時(とき)に大切(たいせつ)なのは、過去(かこ)の出来事(できごと)や人名(じんめい)を覚(おぼ)えることだけではなく、「謎(なぞ)」について探求(たんきゅう)していくことです。
- ・そのため、この授業(じゅぎょう)では各時代(かくじだい)について学(まな)ぶと同時(どうじ)に、歴史(れきし)の専門家(せんもんか)たちにもわかっていない「謎(なぞ)」について受講生(じゅこうせい)の皆(みな)さんと一緒(いっしょ)に考(考)えていきます。
- ・「謎(なぞ)」について調(しら)べたり、ディスカッションしたりする時間(じかん)もありますので、受け身(うけみ)ではなく積極的(せっきよくてき)に授業(じゅぎょう)に参加(さんか)してほしいと思(おも)います。

URGCC 学習教育目標

達成目標

- (1)沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)について知(し)るとともに、自(み)ずから国(くに)や地域(ちいき)・世界(せかい)の歴史(れきし)と結(むす)びつけて考(かん)がえる〔地域(ちいき)・国際性(こくさいせい)〕
- (2)様々(さまざま)な資料(しりょう)、文献(ぶんけん)、写真(しゃしん)、絵画(かいが)、実物(じつぶつ)などを通(とお)して、沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)について多様(たよう)な視点(してん)から理解(りかい)できる〔情報(じょうほう)リテラシー〕
- (3)講義(こうぎ)で取り上(とりあ)げる沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)と関係(かんけい)がある物(もの)について、自(み)ずから調(しら)べて発(は)っぴょうすることができる〔問題(もんだい)解決力(かいけつりょく)〕〔自律性(じりつせい)〕
- (4)他(ほか)の人(ひと)の意見(いけん)を尊重(そんちょう)しながら、自(み)ずからの考(かん)がえを述(の)べてディスカッションに取り組(と)りくむことができる〔コミュニケーション・スキル〕

評価基準と評価方法

- ・出席(しゅっせき)(15%)
- ・ディスカッション等(など)への積極的(せっきよくてき)な参加(さんか)(15%)
- ・毎回(まいかい)の講義(こうぎ)最後(さいご)の小レポート(しょう)(30%)
- ・沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)に関連(かんれん)する物(もの)についての調査(ちょうさ)・報告(ほうこく)(15%)
- ・試験(しけん)(25%)

履修条件

授業計画

- ①オリエンテーション
- ②沖縄(おきなわ)の旧石器(きゅうせき)時代(じだい)の謎(なぞ)
「港川人(みなとがわじん)はなぜフィッシャーに？」について議論(ぎろん)。
- ③旧石器時代の沖縄を知ろう 1
- ④旧石器時代の沖縄を知ろう 2
- ⑤沖縄(おきなわ)の新石器(しんせき)時代(じだい)の謎(なぞ)
「蝶形(ちょうがた)骨器(こつき)は何(なに)に使(つか)われた？」について議論(ぎろん)。

- ⑥新石器時代の沖縄を知ろう 1
- ⑦フィールドワーク①
- ⑧古琉球(こりゅうきゅう)の謎(なぞ)
「グスクは何(なん)のための場所(ばしょ)?」について議論(ぎろん)
- ⑨古琉球を知ろう 1
- ⑩古琉球を知ろう 2
- ⑪フィールドワーク②
- ⑫近世(きんせい)琉球(りゅうきゅう)の謎(なぞ)
「首里(しゅり)城(じょう)の浮き道(うきみち)はなぜ斜め(ななめ)?」について議論(ぎろん)
- ⑬近世琉球を知ろう 1
- ⑭近世琉球を知ろう 2
- ⑮フィールドワーク③
- ⑯試験(しけん)

事前学習

・沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)について、自(みず)からの関心(かんしん)があることを調べる。

事後学習

沖縄(おきなわ)の歴史(れきし)について学(まな)んだことと関係(かんけい)させて、様々(さまざま)な地域(ちいき)や国(くに)の歴史(歴史)について調(しら)べる。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

・受講生(じゅこうせい)の興味(きょうみ)や関心(かんしん)に応(おう)じて、授業内容(じゅぎょうないよ)う)や順番(じゅんばん)を変(か)えることがあります。
・フィールドワークについては、受講生(じゅこうせい)の人数(にんずう)に応(おう)じて、予定(よてい)を変更(へんこう)することがあります。

キーワード

オフィスアワー

授業終了後(じゅぎょうしゅうりょうご)

メールアドレス

genkitaueda@yahoo.co.jp

科目番号	日 931
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105457002
科目名[英文名]	Okinawan Culture I

単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	赤嶺 ゆかり
授業の形態	
講義、実習	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ	
授業内容と方法	
英語で沖縄文化を学ぶクラス。テーマに関する歴史的背景を学び、沖縄文化への知識を深めていく。事前課題(コンセプト・マップ)では、多様な文化背景を持つ受講生同志が自ら発見した事柄や自文化との比較考察を通して互いの問題意識を共有していく。ディスカッションや発表、グループ・プロジェクトなどの協同学習、フィールドトリップや文化的体験の振り返りや意見交換などを通して、沖縄の文化と歴史についての理解を深める。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力	
達成目標	
<p>(1) 沖縄(おきなわ)の文化(ぶんか)について調べた(しらべた)情報(じょうほう)を英語(えいご)で他者(たしや)に伝え(つたえ)、自ら(みずから)の問題(もんだい)意識(いしき)に引き付けて(ひきつけて)考え(かんがえ)、ディスカッションができる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー]</p> <p>(2) 講義(こうぎ)や他者(たしや)の話(はなし)を聞き(きき)、その内容(ないよう)を客観的(きやくかんてき)に把握(はあく)し理解(りかい)し、英語(えいご)でディスカッションできる。[情報リテラシー][コミュニケーション・スキル]</p> <p>(3) 自分(じぶん)の学習(がくしゅう)や体験(たいけん)について振(ふ)り返(かえ)り、その意義(いぎ)、感想(かんそう)、意見(いけん)が英語(えいご)で述(の)べられる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][問題解決力][自律性]</p> <p>(4) 互い(たがい)の意見(いけん)を尊重(そんちょう)し、協力(きょうりょく)して課題(かだい)に取り組む(とりくむ)ことができる。[情報リテラシー][コミュニケーション・スキル][問題解決力]</p>	
評価基準と評価方法	
<p><達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)について></p> <p>①資料(しりょう)や文献(ぶんけん)、体験談(たいけんだん)などを適切(てきせつ)に利用(りよう)し、情報(じょうほう)を収集(しゅうしん)、分析(ぶんせき)できる。(20点(てん))</p> <p>②与(あた)えられたテーマについて、コンセプトマップを用(もち)いて視覚的(しかくてき)に記述(きじゆつ)できる。(10点(てん))</p> <p>③クラスメートにも自分(じぶん)の言葉(ことば)で分(わ)かりやすく説明(せつめい)できる。(10点(てん))</p> <p><達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)(4)について></p> <p>④ディスカッションの場(ば)で、他者(たしや)の意見(いけん)に耳(みみ)を傾(かたむ)け、的確(てきかく)な質問(しつもん)とコメントができる。(20点(てん))</p> <p>⑤ディスカッションの場(ば)で、自分(じぶん)の意見(いけん)を積極的(せっきよくてき)に発言(はつげん)している。(10点(てん))</p> <p><達成(たっせい)目標(もくひょう)(3)について></p> <p>⑥レポートにおいて問題意識(もんたいいしき)や意見を、詳細(しょうさい)かつ明確(めいかく)に記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))</p> <p>⑦レポートが自分(じぶん)の言葉(ことば)で記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))</p>	
評価(ひょうか)方法(ほうほう)	

- ・事前(じぜん)課題(かだい)(コンセプトマップ)30%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)①②③)
- ・ディスカッションへの参加(さんか) 20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤)
- ・学習(がくしゅう)記録(きろく)への記述(きじゆつ)(振り返りと質問(しつもん)10%・自己(じこ)評価(ひょうか)5 5%・クラスメートからの評価(ひょうか)5 5%)
- ・レポート&プレゼンテーション 10%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)
- ・学(がっ)期末(きまつ)レポート&プレゼンテーション 20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)

* 授業(じゆぎょう)を 5 回(かい)以上(いじょう)欠席(けっせき)した場合(ばあい)は、単位(たんい)を与(あた)えない。

* 2 回(かい)の遅刻(ちこく)(30 分(ぶん)以内(いない))は 1 回(かい)の欠席(けっせき)扱(あつか)いとする。

* 欠席(けっせき)の場合(ばあい)、1 週間(しゅうかん)以内(いない)に限(かぎ)り、事前(じぜん)課題(かだい)の提出(ていしゆつ)を受(う)け付(つ)ける。連絡(れんらく)の上(うえ)、持参(じさん)すること。成績(せいせき)にカウントする(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤を除(のぞ)く)

履修条件

(日本人学生):

- (1) 英語で日常会話レベルの基礎的なコミュニケーションが取れること
- (2) 協働学習に積極的に取り組む意志があること
- (3) 派遣留学が決定しているまたは準備中の者、日本語教育副専攻の者を優先的に履修させる

授業計画

01. オリエンテーション、地理
02. 観光業(社会)
03. 音楽(文化)
04. 音楽: 古典から現代まで(文化)
05. 言葉: 文学、おもろ(文化)
06. 琉球舞踊
07. 琉球舞踊(文化)
08. 食べ物 (社会と生活)
09. ハンズオン: 簡単沖縄料理(社会と生活)
10. 地域、時間、家、建築 (社会と生活)
11. 学外研修: 中村家 (地域、文化)
12. 学外研修: 大城集落(地域、文化)
13. 最終試験プレゼンのための途中経過報告会
14. 年中行事(生活、文化)
15. 年中行事(生活、文化)
16. Final Project Presentation & Peer Review, Wrap-Up

事前学習

1. コンセプト・マップ
2. リーディング
3. リサーチ
4. フィールドノート

事後学習

1. 振り返りペーパー
2. リサーチプロジェクト

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

<p>ポートフォリオを準備してください。(ファイルなど) 適宜ハンドアウト配布します。</p>
<p>参考書にかかわる情報</p>
<p>参考書全体備考</p>
<p>使用言語 英語</p>
<p>メッセージ ・レポートの提出は、必ず、google doc ですること。yukari.akamine@gmail.com でシェアしてください。 google のメールアドレスを用意してください。 ・講師がフィードバックのコメントをするので、必ず編集可能モードで提出してください。</p>
<p>キーワード</p>
<p>オフィスアワー 金曜日お昼時間、教室にて。 メールで一日前までに予約してください</p>
<p>メールアドレス yukari.akamine@gmail.com</p>

科目番号	日 001
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 2,火 1,水 2,木 2,金 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105400002
科目名[英文名]	Basic Japanese I
単位	5
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	ケリ 綾子, 真島 知秀, 高江洲 由美子
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・初級レベルの4技能を総合的に学習する週5コマの授業。 ・ひらがな・カタカナのチェックの後、日本語の基本的な文型を覚え、その後教科書で勉強していく。 ・読み練習・書き練習などは基本的に自宅学習とし、授業では文型を使った口頭練習を主に学習する。 ・課ごとに宿題を課す。 	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 話すこと <ul style="list-style-type: none"> ・自分のこと、身の回りの物事、身近な話題や人物について、説明・印象・経験を話すことができる 	

- ・身近な話題について、練習すれば基本的なプレゼンテーションができ、その後の質疑応答ができる
- ・ごく身近なテーマについて、簡単なディスカッションとインタビューができる
- 2. 書くこと
 - ・日常的な内容について、簡単な説明文・事実文・連絡文が書ける
- 3. 聞くこと
 - ・教師の口頭での指示・説明がわかる
 - ・日常的な内容をはっきり言えばわかる
 - ・既習語彙と文型を使って話された文であれば、自然なスピードの日本語が聴き取れる
 - ・パニックにならずに未習語彙を聞き流すことができる
- 4. 読むこと
 - ・教科書のテキストから、必要情報をよみとり、大意がとれる
- 5. やりとり
 - ・身近な話題について、会話を続けることができる
 - ・相手の発言内容を確認できる
 - ・適切なあいづちが打てる
- 6. その他
 - ・日本での生活や接触場面において必要なマナー・知識を習得する

評価基準と評価方法

1. 課題: 30%
2. テスト(筆記: 語彙・文法・作文): 60%
3. 参加態度: 10%

* 3分の1以上の欠席は不可となる

* 30分以内の遅刻は3分の2の出席、30分以上1時間以内の遅刻は3分の1の出席扱いとなる

* 1時間以上の遅刻は欠席扱いとなる

履修条件

1. 協力的にグループで学習する意志があること
2. 事前・事後課題を行えること

授業計画

※ 授業の進度は学習者の理解度によって変わることもあります。

- #1 第1週 ① まるごと入門 第1課 <Katsudo>
- #2 第1週 ② まるごと入門 第1課 <Rikai>
- #3 第1週 ③ まるごと入門 第2課 <Katsudo>
- #4 第1週 ④ まるごと入門 第2課 <Rikai>
- #5 第1週 ⑤ まるごと入門 第3課 <Katsudo>
- #6 第2週 ① まるごと入門 第3課 <Rikai>
- #7 第2週 ② まるごと入門 第4課 <Katsudo>
- #8 第2週 ③ まるごと入門 第4課 <Rikai>
- #9 第2週 ④ まるごと入門 第5課 <Katsudo>
- #10 第2週 ⑤ まるごと入門 第5課 <Rikai>
- #11 第3週 ① まるごと入門 第6課 <Katsudo>
- #12 第3週 ② まるごと入門 第6課 <Rikai>

- #13 第3週 ③ まるごと入門 第7課 <Katsudo>
- #14 第3週 ④ まるごと入門 第7課 <Rikai>
- #15 第3週 ⑤ まるごと入門 第8課 <Katsudo>
- #16 第4週 ① まるごと入門 第8課 <Rikai>
- #17 第4週 ② まるごと入門 第9課 <Katsudo>
- #18 第4週 ③ まるごと入門 第9課 <Rikai>
- #19 第4週 ④ まるごと入門 第10課 <Katsudo>
- #20 第4週 ⑤ まるごと入門 第10課 <Rikai>
- #21 第5週 ① ふりかえり(1) まるごと入門 筆記【第1～10課】
- #22 第5週 ② ふりかえり(2) まるごと入門 会話【第1～10課】
- #23 第5週 ③ まるごと入門 第11課 <Katsudo>
- #24 第5週 ④ まるごと入門 第11課 <Rikai>
- #25 第5週 ⑤ まるごと入門 第12課 <Katsudo>
- #26 第6週 ① まるごと入門 第12課 <Rikai>
- #27 第6週 ② まるごと入門 第13課 <Katsudo>
- #28 第6週 ③ まるごと入門 第13課 <Rikai>
- #29 第6週 ④ まるごと入門 第14課 <Katsudo>
- #30 第6週 ⑤ まるごと入門 第14課 <Rikai>
- #31 第7週 ① まるごと入門 第15課 <Katsudo>
- #32 第7週 ② まるごと入門 第15課 <Rikai>
- #33 第7週 ③ まるごと入門 第16課 <Katsudo>
- #34 第7週 ④ まるごと入門 第16課 <Rikai>
- #35 第7週 ⑤ まるごと入門 第17課 <Katsudo>
- #36 第8週 ① まるごと入門 第17課 <Rikai>
- #37 第8週 ② まるごと入門 第18課 <Katsudo>
- #38 第8週 ③ まるごと入門 第18課 <Rikai>
- #39 第8週 ④ ふりかえり(3) まるごと入門 筆記【第11～18課】
- #40 第8週 ⑤ ふりかえり(4) まるごと入門 会話【第11～18課】
- #41 第9週 ① まるごと初級1 第1課 <Katsudo>
- #42 第9週 ② まるごと初級1 第1課 <Rikai>
- #43 第9週 ③ まるごと初級1 第2課 <Katsudo>
- #44 第9週 ④ まるごと初級1 第2課 <Rikai>
- #45 第9週 ⑤ まるごと初級1 第3課 <Katsudo>
- #46 第10週 ① まるごと初級1 第3課 <Rikai>
- #47 第10週 ② まるごと初級1 第4課 <Katsudo>
- #48 第10週 ③ まるごと初級1 第4課 <Rikai>
- #49 第10週 ④ まるごと初級1 第5課 <Katsudo>
- #50 第10週 ⑤ まるごと初級1 第5課 <Rikai>
- #51 第11週 ① まるごと初級1 第6課 <Katsudo>
- #52 第11週 ② まるごと初級1 第6課 <Rikai>
- #53 第11週 ③ まるごと初級1 第7課 <Katsudo>
- #54 第11週 ④ まるごと初級1 第7課 <Rikai>
- #55 第11週 ⑤ まるごと初級1 第8課 <Katsudo>
- #56 第12週 ① まるごと初級1 第8課 <Rikai>
- #57 第12週 ② まるごと初級1 第9課 <Katsudo>
- #58 第12週 ③ まるごと初級1 第9課 <Rikai>
- #59 第12週 ④ まるごと初級1 第10課 <Katsudo>
- #60 第12週 ⑤ まるごと初級1 第10課 <Rikai>
- #61 第13週 ① ふりかえり(5) まるごと初級1 筆記【第1～10課】
- #62 第13週 ② ふりかえり(6) まるごと初級1 会話【第1～10課】

- #63 第 13 週 ③ まるごと初級 1 第 11 課 <Katsudo>
- #64 第 13 週 ④ まるごと初級 1 第 11 課 <Rikai>
- #65 第 13 週 ⑤ まるごと初級 1 第 12 課 <Katsudo>
- #66 第 14 週 ① まるごと初級 1 第 12 課 <Rikai>
- #67 第 14 週 ② まるごと初級 1 第 13 課 <Katsudo>
- #68 第 14 週 ③ まるごと初級 1 第 13 課 <Rikai>
- #69 第 14 週 ④ まるごと初級 1 第 14 課 <Katsudo>
- #70 第 14 週 ⑤ まるごと初級 1 第 14 課 <Rikai>
- #71 第 15 週 ① まるごと初級 1 第 15 課 <Katsudo>
- #72 第 15 週 ② まるごと初級 1 第 15 課 <Rikai>
- #73 第 15 週 ③ まるごと初級 1 第 16 課 <Katsudo>
- #74 第 15 週 ④ まるごと初級 1 第 16 課 <Rikai>
- #75 第 15 週 ⑤ まるごと初級 1 第 17 課 <Katsudo>
- #76 第 16 週 ① まるごと初級 1 第 17 課 <Rikai>
- #77 第 16 週 ② まるごと初級 1 第 18 課 <Katsudo>
- #78 第 16 週 ③ まるごと初級 1 第 18 課 <Rikai>
- #79 第 16 週 ④ 期末試験【筆記】
- #80 第 16 週 ⑤ 期末試験【会話】

事前学習

次の課の重要語彙(リストを配布)の予習
 ※語彙を予習したら担当教員に随時添削を受けること

事後学習

各課の作文課題
 ※次の回の授業後に提出して添削を受けること

教科書にかかわる情報

まるごと日本のことばと文化 入門(A1)【かつどう】独立行政法人国際交流基金 編著 三修社
 2013 978-4-384-05752-2
 まるごと日本のことばと文化 入門(A1)【りかい】独立行政法人国際交流基金 編著 三修社 2013
 978-4-384-05753-9
 まるごと日本のことばと文化 初級 1(A2)【かつどう】独立行政法人国際交流基金 編著 三修社
 2014 978-4-384-05754-6
 まるごと日本のことばと文化 初級 1(A2)【りかい】独立行政法人国際交流基金 編著 三修社
 2014 978-4-384-05755-3

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

欠席が続くとついていけなくなりますので、体調とスケジュール管理に気をつけて、なるべく欠席しないようにしてください。

キーワード

オフィスアワー

必要に応じて設定しますので、相談してください。

メールアドレス

科目番号	日 201
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	水 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105412002
科目名[英文名]	読解 A
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	真島 知秀
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
授業内容と方法	
「日本語 A」科目の授業計画に準拠し、取り扱う表現および文型を復習することにより読む能力を身につける。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
1.日本語文法を自律的に学習できる力をつける [自律性] 2.日常的な場面で既習文型をある程度正確に使用できる [コミュニケーション・スキル] 3.教科書のテキストから、必要情報をよみとり、大意がとれる [自律性] 4.テキストから日本の文化的特徴を読み取り、自国の文化との違いについて簡単に説明できる [地域・国際性]	
評価基準と評価方法	
期末テスト 40% 授業参加度 30% 課題提出 30%	
履修条件	
規定の日本語理解力チェックテストを受験し、規定の点数に達している者。	
授業計画	
第 1 週 ひらがな・カタカナ確認 第 2 週 『まるごと入門 第 3～6 課』相当の表現および文型> 第 3 週 『まるごと入門 第 7～10 課』相当の表現および文型> 第 4 週 『まるごと入門 第 1～14 課』相当の表現および文型> 第 5 週 『まるごと入門 第 15～18 課』相当の表現および文型> 第 6 週 『まるごと初級 1 第 1～4 課』相当の表現および文型> 第 7 週 『まるごと初級 1 第 5～8 課』相当の表現および文型> 第 8 週 『まるごと初級 1 第 9～10 課』相当の表現および文型> 第 9 週 『まるごと初級 1 第 11～14 課』相当の表現および文型> 第 10 週 『まるごと初級 1 第 15～18 課』相当の表現および文型>	

第 11 週 『まるごと初級 2 第 1～4 課』相当の表現および文型>
 第 12 週 『まるごと初級 2 第 5～8 課』相当の表現および文型>
 第 13 週 『まるごと初級 2 第 9～10 課』相当の表現および文型>
 第 14 週 『まるごと初級 2 第 11～14 課』相当の表現および文型>
 第 15 週 『まるごと初級 2 第 15～18 課』相当の表現および文型>

 第 16 週 期末テスト

事前学習

極力事前に語句リストを配布するので、単語の意味を辞書で引いておくこと。
 「日本語 A」科目で配布された語彙リストの書きこみ欄に文字の練習をして、授業中に担当教員の添削を受けること。

事後学習

授業中に理解できなかった語彙や表現は意味を確認しておくこと。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

担当教員が学習進度に合わせたプリントを作成し配布する。

参考書にかかわる情報

みんなの日本語初級 1 初級で読めるトピック 25 牧野昭子, 澤田幸子, 重川明美, 田中よね, 水野マリ子 著, スリーエーネットワーク 2014 978-4-88319-689-0
 みんなの日本語初級 2 初級で読めるトピック 25 牧野昭子, 澤田幸子, 重川明美, 田中よね, 水野マリ子 著, スリーエーネットワーク 2016 978-4-88319-712-5

参考書全体備考

上記書籍等を参考に、学習進度に合わせたプリントを作成し配布する。

使用言語

日本語

メッセージ

理解度を深めるために読んだ後に自分の考えを簡単に述べるなど、みんなで活動できる機会も設けます。
 事前・事後学習で分からない単語を辞書で確認しておきましょう。
 授業中はなるべく辞書を使わずに読み進めることを心がけましょう。

キーワード

オフィスアワー

水曜日 15:00～
 2F 非常勤講師室<207 号>

メールアドレス

majima215@gmail.com

科目番号	日 204
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105415002
科目名[英文名]	読解 B2F
単位	2

担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	中川 麻美
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	
初級を終了した学習者のためのクラスです。 まとまりのある文を読みながら新しいことばや表現を理解します。 精読練習や速読練習を通して読む力を身につけます。 様々なテーマについて自分の意見や感想を相手に伝えたり、話し合ったりしながら知識を深めます。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力	
達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある日本語の文に関心を持って読む[自律性][地域・国際性] ・様々な種類の文の特徴を知る[コミュニケーション・スキル][社会性] ・文から必要な情報を得ることができる[情報リテラシー][コミュニケーションスキル] ・新しいことばや表現を理解し、自分で使うことができる[自律性][コミュニケーションスキル] ・読んだ文について、自分の意見を他者に伝えることができる[コミュニケーションスキル][問題解決力] 	
評価基準と評価方法	
課題提出 40%	
授業参加度 30%	
期末テスト 30%	
履修条件	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、比較表現のある文 2. 様子・類似表現のある文 3. 程度・変化をあらわす表現のある文 4. 対比・逆接表現のある文 5. 伝聞表現のある文 6. JLPT 問題にチャレンジ 7. 時をあらわす表現のある文 8. 様子をあらわす表現のある文 9. 予想・期待をあらわす表現のある文 10. 原因・理由をあらわす表現 11. JLPT 問題にチャレンジ 12. 長文読解① 13. 長文読解② 14. 長文読解③ 15. 復習・まとめ 16. 期末テスト 	
事前学習	
テキストのわからないことば・表現を調べておいてください。	
事後学習	
授業中に終わらなかったタスクがあれば、完成させてください。	

教科書にかかわる情報 ニューアプローチ中級日本語 小柳昇著 語文研究社 2003 4931315151
教科書全体備考 オリジナルプリントを配布します。
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 金曜日 13:30～ 2F 非常勤講師室
メールアドレス asanakagawa @ gmail.com

科目番号	日 501
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105433002
科目名[英文名]	会話 A
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	加藤 登美子 [Tomiko Kato]
授業の形態 講義、実習	
アクティブラーニング	
授業内容と方法 ペアやグループで会話の練習をして、会話の内容をまとめて発表をする。	
URGCC 学習教育目標 自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標 1. 日本での生活に必要な会話ができるようになる。〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕 2. 日本語だけで話すことができるようになる。〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕 3. 日本語で自分の意見が言えるようになる。〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕	
評価基準と評価方法 出席・授業態度： 20%〔達成目標 2・3 の評価〕	

授業活動:40%[達成目標 1・2・3 の評価]

発表:20%[達成目標 2・3 の評価]

課題:20%[達成目標 1・2・3 の評価]

履修条件

ひらがな・カタカナは早い段階でマスターしてください。

授業計画

第1回:オリエンテーション、基本的な挨拶

第2回:Unit 1 Making Friends(1)

第3回:Unit 1 Making Friends(2)

第4回:Unit 2 Going out to Eat(1)

第5回:Unit 2 Going out to Eat(2)

第6回:Unit 3 Asking Questions(1)

第7回:Unit 3 Asking Questions(2)

第8回:Unit 4 Talking About Travel(1)

第9回:Unit 4 Talking About Travel(2)

第10回:病気の言い方

第11回:Unit 5 Heading Around Town(1)

第12回:Unit 5 Heading Around Town(2)

第13回:Unit 6 Saying Goodbye(1)

第14回:Unit 6 Saying Goodbye(2)

第15回:全体の振り返りとまとめ

事前学習

新しい言葉を調べる

事後学習

習った言葉・文型を復習し、覚える

教科書にかかわる情報

Nihongo active talk : the first Japanese textbook for beginners 上原由美子, 菊池民子著 アスク出版 2014 978-4-87217-915-6

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

授業中はなるべく日本語だけで話しましょう。積極的に参加してください。

キーワード

オフィスアワー

研究室: 共通教育棟 1号館 506 室

Tel: 895-8630

メールアドレス

tkato@lab.u-ryukyu.ac.jp

tomiminka8117@gmail.com

科目番号	日 601
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 3,木 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105441002
科目名[英文名]	漢字 A
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	新城 直樹
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法	
1) 漢字の成り立ちと意味、使い方 2) ワークシートで書きと読みの練習 3) クイズ 4) 宿題(書きと読み)	
URGCC 学習教育目標	
達成目標	
・基本的な漢字の読み書きができる[コミュニケーション・スキル][情報リテラシー] ・身のまわりにある漢字を探し、そこから文化・歴史・社会について調べることができる[自律性][地域・国際性]	
評価基準と評価方法	
宿題・課題 20% クイズ 40% テスト 40%(中間 20%+期末 20%)	
履修条件	
プレースメントテスト(J-CAT)と履修指導を受けた留学生	
授業計画	
01. プレースメントテスト 02-07. 練習(クイズ) 08. 中間テスト 09-15. 練習(クイズ) 16. 期末テスト	
事前学習	
予習を必ずやって、毎回クイズをしてください。	
事後学習	
宿題を必ずやって、出してください。	
教科書にかかわる情報	
教科書全体備考	
参考書にかかわる情報	

参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 月曜 午後(15:00-17:00) 木曜 午後(15:00-17:00)
メールアドレス

科目番号	日 941
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105459002
科目名[英文名]	Okinawan History I
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	赤嶺 ゆかり

授業の形態
講義
アクティブラーニング
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる
授業内容と方法
留学生(りゅうがくせい)とともに英語(えいご)で琉球・沖縄の歴史(れきし)を学ぶ(まなぶ)。事前(じぜん)課題(かだい)のテーマを調べてコンセプトマップを描き(かき)、多様(たよう)な文化(ぶんか)背景(はいけい)を持つ(もつ)受講生(じゅこうせい)間(かん)で協同(きょうどう)学習(がくしゅう)を行(おこな)う。知識(ちしき)を得(え)るだけではなく、歴史(れきし)への理解(りかい)を深め、深(ふか)い異文化(いぶんか)理解(りかい)を目指(めざ)す。ディスカッションと発表(はっぴょう)の前後(ぜんご)に講義(こうぎ)を行(おこな)う。
URGCC 学習教育目標
自律性、地域・国際性、情報リテラシー、問題解決力
達成目標
(1) 琉球宇・沖縄(りゅうきゅきゅ・おきなわ)の歴史(れきし)について調べた(しらべた)情報(じょうほう)を英語(えいご)で他者(たしや)に伝え(つたえ)、自ら(みづから)の問題(もんだい)意識(いしき)に引き付けて(ひきつけて)考え(かんがえ)、ディスカッションができる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー]
(2) 講義(こうぎ)や他者(たしや)の話(はなし)を聞き(きき)、その内容(ないよう)を客観的(きゃくかんてき)に把握(はあく)し理解(りかい)し、英語(えいご)でディスカッションできる。[情報リテラシー][コミュニケーション・スキル]

(3) 自分(じぶん)の学習(がくしゅう)や体験(たいけん)について振(ふ)り返(かえ)り、その意義(いぎ)、感想(かんそう)、意見(いけん)が英語(えいご)で述(の)べられる。〔地域・国際性〕〔コミュニケーション・スキル〕〔問題解決力〕〔自律性〕

(4) 互い(たがい)の意見(いけん)を尊重(そんちょう)し、協力(きょうりょく)して課題(かだい)に取り組む(とりくむ)ことができる。〔情報リテラシー〕〔コミュニケーション・スキル〕〔問題解決力〕

評価基準と評価方法

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)について>

①資料(しりょう)や文献(ぶんけん)、体験談(たいけんだん)などを適切(てきせつ)に利用(りよう)し、情報(じょうほう)を収集(しゅうしん)、分析(ぶんせき)できる。(20点(てん))

②与(あた)えられたテーマについて、コンセプトマップを用(もち)いて視覚的(しかくてき)に記述(きじゆつ)できる。(10点(てん))

③クラスメートにも自分(じぶん)の言葉(ことば)で分(わ)かりやすく説明(せつめい)できる。(10点(てん))

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)(4)について>

④ディスカッションの場(ば)で、他者(たしや)の意見(いけん)に耳(みみ)を傾(かたむ)け、的確(てきかく)な質問(しつもん)とコメントができる。(20点(てん))

⑤ディスカッションの場(ば)で、自分(じぶん)の意見(いけん)を積極的(せっきよくてき)に発言(はつげん)している。(10点(てん))

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(3)について>

⑥レポートにおいて問題意識(もんたいいしき)や意見を、詳細(しょうさい)かつ明確(めいかく)に記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))

⑦レポートが自分(じぶん)の言葉(ことば)で記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))

評価(ひょうか)方法(ほうほう)

・事前(じぜん)課題(かだい)(コンセプトマップ)30%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)①②③)

・ディスカッションへの参加(さんか)20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤)

・学習(がくしゅう)記録(きろく)への記述(きじゆつ)(振り返り(ひりかえり)と質問(しつもん)10%・自己(じこ)評価(ひょうか)5%・クラスメートからの評価(ひょうか)5%)

・レポート&プレゼンテーション10%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)

・学(が)期末(きまつ)レポート&プレゼンテーション20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)

* 授業(じゆぎょう)を5回(かい)以上(いじょう)欠席(けっせき)した場合(ばあい)は、単位(たんい)を与(あた)えない。

* 2回(かい)の遅刻(ちこく)(30分(ぷん)以内(いない))は1回(かい)の欠席(けっせき)扱(あつか)いとする。

* 欠席(けっせき)の場合(ばあい)、1週間(しゅうかん)以内(いない)に限(かぎ)り、事前(じぜん)課題(かだい)の提出(ていしゆつ)を受(う)け付(つ)ける。連絡(れんらく)の上(うえ)、持参(じさん)すること。成績(せいせき)にカウントする(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤を除(のぞ)く)

履修条件

(日本人学生):

(1) 英語で日常会話レベルの基礎的なコミュニケーションが取れること

(2) 協働学習に積極的に取り組む意志があること

(3) 派遣留学が決定しているまたは準備中の者、日本語教育副専攻の者を優先的に履修させる

授業計画

01. オリエンテーション 02. #1 先史時代、貝塚時代 03. 学外:考古学センター 04. #2 グスク時代、三山時代 05. #3 琉球国の誕生、第一尚氏 06. 学外研修:首里城 07. 学外研修:首里城 08. #4 尚泰久王、護佐丸、阿麻和利 09. 学外研修:中城グスク 10. #5 琉球王国の中央集権化、第2尚氏 11. 学外研修:斎場御嶽 12. 学外研修:斎場御嶽 13. #6 大交易時代、宮古八重山の争乱時代 14. 薩摩侵攻、尚寧王 15. 羽時朝秀、暮らし、 16. #7 まとめ、レポート発表&提出
事前学習 1. コンセプト・マップ 2. リーディング
事後学習 1. 振り返りペーパー 2. リサーチプロジェクト
教科書にかかわる情報
教科書全体備考 ポートフォリオを準備してください。(ファイルなど) 適宜ハンドアウト配布します。
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 英語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 金曜日お昼時間、教室にて。 メールで一日前までに予約してください
メールアドレス yukari.akamine@gmail.com

科目番号	日 004
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 1,木 1
開講学部名	共通教育等科目

講義コード	105403002
科目名[英文名]	日本語 B1
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	渡真利 聖子
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	
【初中級レベルの語彙・表現を学習する週 2 コマの授業】	
・これまでの学習内容のまとめと応用を行う(JF スタンドの A1-A2 レベル)	
・新しい学習項目の導入と練習を行う(JF スタンドの A2-B1 レベル)	
・中級レベル(JF スタンドの B1 レベル)の準備としてテキスト以外の表現の練習を行う	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
【A2 レベル】	
・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。[コミュニケーション・スキル]	
・簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。[地域・国際性][自律性][コミュニケーション・スキル]	
・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。[自律性][コミュニケーション・スキル]	
【B1 レベル】	
・身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べる。[自律性][コミュニケーション・スキル]	
・仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。[自律性][コミュニケーション・スキル]	
・その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。[地域・国際性][自律性][コミュニケーション・スキル]	
評価基準と評価方法	
1)課題・提出物:30%	
2)テスト:30%	
3)クイズ:20%	
4)参加態度:20%	
*3 分の 1 以上の欠席は不可となる	
*30 分以内の遅刻は 3 分の 2 の出席、30 分以上 1 時間以内の遅刻は 3 分の 1 の出席扱いとなる	
*1 時間以上の遅刻は欠席扱いとなる	
履修条件	
1)初級レベル(A2)を修了していることが望ましい	
2)協同学習に積極的に参加する意志がある者	
授業計画	
1) 授業の説明、実力テスト	

- 2) レベル A で学んだ表現の復習(1)
- 3) レベル A で学んだ表現の復習(2)
- 4) レベル A で学んだ表現の復習(3)
- 5) トピック 1-1
- 6) トピック 1-2
- 7) トピック 2-1
- 8) トピック 2-2
- 9) トピック 3-1
- 10) トピック 3-2
- 11) トピック 4-1
- 12) トピック 4-2
- 13) トピック 5-1
- 14) トピック 5-2
- 15) 復習 トピック 1 - トピック 5
- 16) テストトピック 1 - トピック 5
- 17) レベル B1 への橋渡し(1)
- 18) レベル B1 への橋渡し(2)
- 19) 小学校訪問 一国の紹介
- 20) トピック 6-1
- 21) トピック 6-2
- 22) レベル B1 への橋渡し(3)
- 23) トピック 7
- 24) トピック 8-1
- 25) トピック 8-2
- 26) トピック 9-1
- 27) トピック 9-2
- 28) 復習 トピック 6 - トピック 9
- 29) テストトピック 6 - トピック 9
- 30) レベル B1 への橋渡し(4)
- 31) 期末テスト(実力テスト)

事前学習

- 1) 次の課の重要語彙の予習(語彙リストとテキスト各課始めの 2 ページの問題)
- 2) 各課トピックの作文

事後学習

- 1) 学習した課の語彙の暗記
- 2) 学習した課の復習

教科書にかかわる情報

まるごと：日本のことばと文化 国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社
2013 978-4-384-05758-4

教科書全体備考

教科書はクラスでまとめて購入します。

『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1 Marugoto Nihon no Kotoba to Bunka Shochukyu (A2/B1)』

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ
キーワード
オフィスアワー 適宜相談に応じます
メールアドレス seikot@lab.u-ryukyu.ac.jp

科目番号	日 101
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105404002
科目名[英文名]	文法 A
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	山元 淑乃
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法 タスク中心に進められる日本語 A で扱う文法項目について、英語による文法解説や復習を行います。	
URGCC 学習教育目標	
達成目標 1. 日本語初級文法を体系的に理解し、日常生活で使うことができる [コミュニケーション・スキル] 2. 日本語文法を自律的に学習できる力をつける [自律性] 3. 多様な文化的背景を持つ留学生との協同学習により、異文化理解力を深める [地域・国際性]	
評価基準と評価方法 ・定期テスト(60%)…(1) ・協同学習への参加態度(40%)…(2)(3)	
履修条件 1. 協力的にグループで学習する意志があること 2. 事前・事後課題を行えること	
授業計画 1. ひらがな・カタカナ 2. 名詞文・指示詞 3. 動詞文・形容詞文 4. 比較・最上の表現 5. ある/いる・助数詞 6. 動詞の活用(て形) 7. 動詞の活用 8. 普通体 9. 授受	

10. ~んです・動詞の活用(可能形) 11. 自動詞・他動詞 12. 動詞の活用(意向形・命令形・禁止の形・仮定形) 13. 受身 14. 使役 15. 復習
事前学習 1. 総合日本語 A で習った文法についての疑問をまとめる 2. 予習のプリント
事後学習 ・復習のプリント ・クイズの準備
教科書にかかわる情報
教科書全体備考 Handout will be distributed.
参考書にかかわる情報 日本語文型辞典 英語版 —A Handbook of Japanese Grammar Patterns for Teachers and Learners 4874246788
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ 文法に関するモヤモヤを解決して、自信を持って使えるようにがんばりましょう。
キーワード
オフィスアワー 火曜 4 限 留学生センター205-1 (TEL: 098-895-8116)
メールアドレス ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp yoshinoyama@gmail.com

科目番号	日 804
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	木 5
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105452002
科目名[英文名]	ビジネス日本語Ⅱ
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	高江洲 由美子
授業の形態 講義	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	

授業内容と方法

前期の「ビジネス日本語Ⅰ」を更に発展させ、ビジネス場面で商談を円滑に行うことができるスキルの向上を目指す。また、「BJT ビジネス日本語能力テスト」に取り組むことにより、日本語コミュニケーション能力の更なる向上も目指す。

URGCC 学習教育目標

地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

- 1、日本におけるビジネスの知識を更に深め、商談を適切に行うことができる。〔地域・国際性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- 2、社内で使われる表現と、社外で使われる表現の違いを知り、適切なコミュニケーションを取ることができる。〔地域・国際性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- 3、「BJT ビジネス日本語能力テスト」の目的を知り、自らの日本語コミュニケーション能力を向上させることができる。〔問題解決力〕

評価基準と評価方法

クイズ： 20%

参加度： 20%

発表： 15%

課題： 15%

期末試験： 30%

合計： 100%

(但し、全授業数の3分の1以上欠席した者へは単位を与えない)

履修条件

「ビジネス日本語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

授業計画

- 第1週：オリエンテーション、当番決め(日直、係活動)、「BJT ビジネス日本語能力テスト」について
- 第2週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』6課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 練習
- 第3週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』6課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 解説
- 第4週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』6課「電話を受ける」③、会話の練習、BJT 練習
- 第5週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』7課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 解説
- 第6週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』7課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 練習
- 第7週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』8課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 解説
- 第8週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』8課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 練習
- 第9週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』8課「電話を受ける」③、会話の練習、BJT 解説
- 第10週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』9課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 練習
- 第11週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』9課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 解説
- 第12週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』9課「電話を受ける」③、会話の練習、BJT 練習
- 第13週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』10課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 解説
- 第14週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』10課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 練習
- 第15週：『映像で学ぶ ビジネス日本語』10課「電話を受ける」③、会話の練習、BJT 解説
- 第16週：期末試験

事前学習 授業終了時に次回の学習内容を提示するので、必ず予習しておくこと。
事後学習 授業後の復習を十分に行うこと。
教科書にかかわる情報 『映像で学ぶ ビジネス日本語』② 株式会社日本映像教育社、教育事業部編著 凡人社 2004
教科書全体備考
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 随時
メールアドレス ytakaesu1152000@yahoo.co.jp

科目番号	日 956
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	水 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105462002
科目名[英文名]	日本の文化Ⅱ
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	加藤 登美子 [Tomiko Kato]
授業の形態 講義、実習	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法 沖縄の留学生活では、触れる機会の少ない日本文化を扱います。授業方法は、事前課題として与えられたトピックについて調べ、それをもとに様々な国や文化からきた受講生間で発表とディスカッションを行ったり、自主的にテーマを考え調べたことを発表したりします。また、ただ知識を得るだけでなく、実際に文化体験などを通じてより深い異文化理解を目指します。	

URGCC 学習教育目標

自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル

達成目標

- (1) 日本や自国の文化について、両者を比較しながら日本語で簡単な紹介とディスカッションができる〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- (2) クラスメートの発表を注意深く聞き、的確な質問やコメントができる〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- (3) 日本の代表的な伝統文化について、正しく理解し、他者に説明できる〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- (4) 自分の文化体験について振り返り、その意義、感想、意見が述べられる〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕
- (5) 自国や日本の文化について、自分で調べ、正しい情報が選択できる〔地域・国際性〕〔自律性〕
- (6) グループで協働作業をし、その成果を発表することができる〔地域・国際性〕〔自律性〕〔コミュニケーション・スキル〕

評価基準と評価方法

評価方法

- ・ 事前課題(調べ学習と発表準備) 40%(達成目標(5))
- ・ ディスカッションへの参加 30%(達成目標(1)(2)(4)(6))
- ・ レポート 30%(達成目標(3)(4)(5))

履修条件

- ・ 日本語で準備なしに日常的なディスカッションができること。
- ・ 準備すれば少し抽象的なテーマについても意見交換ができること。
- ・ 協働学習に積極的に参加する意志があること。
- ・ 日本語能力が中級以上と認められたもの。

授業計画

- 1 オリエンテーションと自己紹介をかねたグループディスカッション「日本文化といえば？」
- 2 季節を楽しむ年中行事
- 3 教育(1)
- 4 教育(2)
- 5 産業構造と経済(1)
- 6 産業構造と経済(2)
- 7 儀式(1)
- 8 儀式(2)
- 9 現代文化とポップカルチャー(1)
- 10 現代文化とポップカルチャー(2)
- 11 自由研究(1)
- 12 自由研究(2)
- 13 茶道(1)
- 14 茶道(2)体験学習
- 15 学習のまとめと振り返り

* 受講生の要望、外部講師の事情等により変更することがあります。

事前学習

新出語彙を調べます。
与えられたトピックについて調べます。

事後学習
トピックによってはレポート提出を求められます。 クイズや試験はありません。
教科書にかかわる情報
教科書全体備考
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ クイズや試験はありませんので、事前・事後学習をしっかりと、自分の言葉で積極的にディスカッションに参加できるよう準備してください。インターネットからコピーペーストした宿題は評価の対象になりませんので注意してください。
キーワード
オフィスアワー 共通教育棟 1 号館 506 号室 Tel:895-8630
メールアドレス tkato@lab.u-ryukyu.ac.jp tomiminka8117@gmail.com

科目番号	日 003
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 1~2,火 1~2,木 1~2,金 1~2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105402002
科目名[英文名]	日本語 A
単位	8
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	加藤 登美子 [Tomiko Kato], 真島 知秀, 高江洲 由美子, ケリ 綾子
授業の形態 講義	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法 ・初級レベルの 4 技能を総合的に学習する、週 8 コマの授業 ・ひらがな・カタカナのチェックの後、日本語の基本的な文型を覚え、その後教科書で勉強していく。 ・読み練習・書き練習などは基本的に自宅学習とし、授業では文型を使った口頭練習を主に学習する。 ・課ごとに宿題を課す。	

URGCC 学習教育目標

自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル

達成目標

- 1) 話すこと[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・自分のこと、身の回りの物事、身近な話題や人物について、説明・印象・経験談を話すことができる
 - ・身近な話題について、練習すれば基本的なプレゼンテーションができ、その後の質疑応答ができる
 - ・ごく身近なテーマについて、簡単なディスカッションとインタビューができる
- 2) 書くこと[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・日常的な内容について、簡単な説明文・事実文・連絡文が書ける
- 3) 聞くこと[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・教師の口頭での指示・説明がわかる
 - ・日常的な内容をはっきり言えばわかる
 - ・既習語彙と文型を使って話された文であれば、自然なスピードの日本語が聞き取れる
 - ・パニックにならずに未習語彙を聞き流すことができる
- 4) 読むこと[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・教科書のテキストから、必要情報をよみとり、大意がとれる
- 5) やりとり[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・身近な話題について、会話を続けることができる
 - ・相手の発言内容を確認できる
 - ・適切なあいづちが打てる
- 6) その他[コミュニケーション・スキル], [地域・国際性], [自律性], [情報リテラシー]
 - ・日本での生活や接触場面において必要なマナー・知識を習得する

評価基準と評価方法

- 1)課題: 30%(一日一課分(計 54 回)の作文課題)
 - 2)テスト(筆記/口頭): 60%
 - 3)参加態度: 10%
- *3 分の 1 以上の欠席は不可となる
*30 分以内の遅刻は 3 分の 2 の出席、30 分以上 1 時間以内の遅刻は 3 分の 1 の出席扱いとなる
*1 時間以上の遅刻は欠席扱いとなる

履修条件

- *学期開始前に行うプレイスメントテストを受けていること
- *ひらがな・カタカナを事前に予習したもの
- *協同学習に積極的に参加する意志があるもの

授業計画

- 第 1 週① 1_A1-L1 ひらがな
第 1 週② 2_A1-L2 カタカナ
第 1 週③ 3_A1-L3 どうぞ よろしく
第 1 週④ 4_A1-L4 かぞくは 3 にんです
第 2 週① 5_A1-L5 なにが すきですか
第 2 週② 6_A1-L6 どこで たべますか
第 2 週③ 7_A1-L7 へやが 3 つ あります
第 2 週④ 8_A1-L8 いい へやですね
第 3 週① 9_A1-L9 なんじに おきますか
第 3 週② 10_A1-L10 いつが いいですか
第 3 週③ テストとふりかえり
第 3 週④ 11_A1-L11 しゅみは なんですか
第 4 週① 12_A1-L12 いっしょに いきませんか
第 4 週② 13_A1-L13 どうやって いきますか

第4週③ 14_A1-L14 ゆうめいな おてらです
第4週④ 15_A1-L15 かわいい！
第5週① 16_A1-L16 これ、ください
第5週② 17_A1-L17 たのしかったです
第5週③ 18_A1-L18 つぎは きょうとに いきたいです
第5週④ 復習(予備日)
第6週① テストとふりかえり
第6週② 19_A2-1-L1 東京に すんでいます
第6週③ 20_A2-1-L2 しゅみは クラシックを 聞くことです
第6週④ 21_A2-1-L3 日本は 今、春です
第7週① 22_A2-1-L4 いい 天気ですね
第7週② 23_A2-1-L5 この こうえんは 広くて、きれいです
第7週③ 24_A2-1-L6 まっすぐ 行ってください
第7週④ 25_A2-1-L7 10 時でも いいですか
第8週① 26_A2-1-L8 もう やけいを見に 行きましたか
第8週② 27_A2-1-L9 日本語は はつおんが かんたんです
第8週③ 28_A2-1-L10 いつか 日本に 行きたいです
第8週④ テストとふりかえり
第9週① 29_A2-1-L11 何を 持っていきますか
第9週② 30_A2-1-L12 おいしそうですね
第9週③ 31_A2-1-L13 たなかさんに 会ったことが あります
第9週④ 32_A2-1-L14 これ、使っても いいですか
第10週① 33_A2-1-L15 たいそうすると いいですよ
第10週② 34_A2-1-L16 走ったり、泳いだり しています
第10週③ 35_A2-1-L17 誕生日に もらったんです
第10週④ 36_A2-1-L18 パーティーが いいと 思います
第11週① 復習(予備日)
第11週② テストとふりかえり
第11週③ 37_A2-2-L1 いい 名前ですね
第11週④ 38_A2-2-L2 めがねを かけている 人です
第12週① 39_A2-2-L3 おすすめは 何ですか
第12週② 40_A2-2-L4 どうやって 食べますか
第12週③ 41_A2-2-L5 ぼうしを 持っていった ほうが いいですよ
第12週④ 42_A2-2-L6 イルカの ショーが 見られます
第13週① 43_A2-2-L7 雨が ふったら、どうしますか
第13週② 44_A2-2-L8 コンサートは もう 始まりましたか
第13週③ 45_A2-2-L9 お正月は どうしていましたか
第13週④ 46_A2-2-L10 いい ことが ありますように
第14週① テストとふりかえり
第14週② 47_A2-2-L11 そうじ機が こわれて しまったんです
第14週③ 48_A2-2-L12 こっちの 方が 安いです
第14週④ 49_A2-2-L13 この お寺は 14 世紀に たてられました
第15週① 50_A2-2-L14 この 絵は とても 有名だそうです
第15週② 51_A2-2-L15 電気が ついた ままですよ
第15週③ 52_A2-2-L16 フリーマーケットで 売ります
第15週④ 53_A2-2-L17 この 人、知っていますか
第16週① 54_A2-2-L18 どんな 子どもでしたか
第16週② 復習(予備日)
第16週③ テストとふりかえり
第16週④ ロールプレイテスト

<p>事前学習 次の課の重要語彙(リストを配布)の予習 ※語彙を予習したら担当教員に随時添削を受けること</p>
<p>事後学習 各課の作文課題 ※次の回の授業後に提出して添削を受けること</p>
<p>教科書にかかわる情報 まるごと：日本のことばと文化 入門(A1)【かつどう】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2013 978-4-384-05752-2 まるごと：日本のことばと文化 入門(A1)【りかい】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2013 978-4-384-05753-9 まるごと：日本のことばと文化 初級1(A2)【かつどう】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2014 978-4-384-05754-6 まるごと：日本のことばと文化 初級1(A2)【りかい】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2014 978-4-384-05755-3 まるごと：日本のことばと文化 初級2(A2)【かつどう】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2014 978-4-384-05756-0 まるごと：日本のことばと文化 初級2(A2)【りかい】国際交流基金編著；来嶋洋美, 柴原智代, 八田直美執筆 三修社 2014 978-4-384-05757-7</p>
<p>教科書全体備考</p>
<p>参考書にかかわる情報</p>
<p>参考書全体備考</p>
<p>使用言語 日本語</p>
<p>メッセージ 語彙の予習をしてください。 課題は毎回必ずやって提出すること。 積極的に発言・質問すること。 ※1年間共に学んでいくメンバーです。みんなで協力しながら良いクラスを作っていきましょう！</p>
<p>キーワード</p>
<p>オフィスアワー 必要により設けますので、相談してください。</p>
<p>メールアドレス 第1週のクラスでお知らせします。</p>

科目番号	日 102
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105405002
科目名[英文名]	文法 B1

単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	山元 淑乃
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法 初級文法の復習と総合学習のためのクラスです。初級で学習した文法項目を、新たな視点から整理し、使いこなせるよう練習します。	
URGCC 学習教育目標	
達成目標 1.日本語の文法について体系的に理解し、他者に説明できる[地域・国際性] 2.日常的な場面で既習文型をある程度正確に使用できる [コミュニケーション・スキル] 3.日本語を自律的に学習できる力をつける [自律性]	
評価基準と評価方法 ・クイズ(40%)…(1) ・中間テスト(20%)…(1・2) ・期末テスト(20%)…(1・2) ・事前・事後課題(10%)…(1・2・3) ・授業態度(10%)…(1・2・3)	
履修条件 1.初級文法学習を終了していること 2.協働学習に積極的に参加する意志があること 3.事前・事後課題を行えること	
授業計画 1.オリエンテーション・文の種類 2.助詞・「は」と「が」 3.動詞の活用と文型 4.指示詞(こそあど) 5.ふつう体 6.自分か他者か・「そう」と「よう」 7.継続と瞬間・話者の位置 8.復習と中間テスト 9.他動詞と自動詞 10.可能表現・事実と意志と働きかけ 11.条件を表す表現 12.授受 13.使役 14.受身・使役受身 15.敬語・待遇表現 16.学習の振り返りと期末テスト	
事前学習 教科書の文法説明を理解し、問題を全て予習する	
事後学習 復習問題とクイズの準備	
教科書にかかわる情報	

教科書全体備考
参考書にかかわる情報 どんなどきどう使う日本語表現文型辞典：英・中・韓 3カ国語訳付き：日本語能力試験 N1～N5 の重要表現を網羅 友松悦子, 宮本淳, 和栗雅子著 アルク 2010 BB02291696 9784757418868 日本語文型辞典 英語版 —A Handbook of Japanese Grammar Patterns for Teachers and Learners 4874246788
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ 宿題がとても多いクラスです。心して履修を決めてください。
キーワード
オフィスアワー 火曜 4 限 留学生センター205-1
メールアドレス ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp yoshinoyama@gmail.com

科目番号	日 208
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	木 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105419002
科目名[英文名]	読解 C2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	名嶋 義直
授業の形態	講義、演習又は実験
アクティブラーニング	学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる
授業内容と方法	【内容】日本語で書かれた文章を読み、読む力を伸ばす。 読んだ内容について考え、意見を述べたり議論をしたりすることで、社会的なコミュニケーション力を伸ばす。 【方法】予習をする。 教室では教員が説明をしたり質問をしたりする。 それを通して、理解を確認したり深めたりする。 読んだあとで、感想を述べたり、意見を述べたりする。
URGCC 学習教育目標	自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力
達成目標	

1. 自分の力で日本語の文章を読めるようになる。[地域・国際性][自律性]
2. 日本語で書かれた文章を読み、内容が理解できるようになる。[地域・国際性][情報リテラシー]
3. 日本語で意見を述べたり、他の人の意見を聞いたり、話し合ったりできるようになる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][社会性]
4. 問題解決の方策を提案できるようになる。[問題解決力]

評価基準と評価方法

1. 読むテキストごとの予習シート提出: 20 %
2. 出席: 20 %
3. 授業中の取り組み: 20 %
4. 第 16 週時の、テスト、または読解レポート: 40 %

履修条件

留学生向けの授業ですが、日本語教育副専攻授業の受講生と一緒に学びます。

授業計画

具体的な授業計画は、第一回目の授業で相談の上、決定する。
決める項目は以下の通り。

【何を読むか】

新聞記事を中心に読む予定。

具体的な内容は、受講生の興味関心と教員の希望とを合わせて考えるが、社会的な内容のものを多く読む予定。

【どう読むか】

どのように授業を進めていくか、第一回目の授業で受講生と相談して決める。

受講生の人数によっては、グループに分けて発表しながら読んでいく授業もありうる。

【授業計画(案)】

第 1 週: オリエンテーション, テキスト1の読解

第 2 週: テキスト1の読解

第 3 週: テキスト2の読解

第 4 週: テキスト3の読解

第 5 週: テキスト4の読解

第 6 週: テキスト5の読解

第 7 週: テキスト6の読解

第 8 週: テキスト7の読解

第 9 週: テキスト8の読解

第 10 週: テキスト9の読解

第 11 週: テキスト 10 の読解

第 12 週: テキスト 11 の読解

第 13 週: テキスト 12 の読解

第 14 週: テキスト 13 の読解

第 15 週: テキスト 14 の読解

第 16 週: テストまたは読解レポート

事前学習

決められた部分を必ず予習する。
 予習の時に調べた単語や表現のリストを作る。
 文章を読んで要点をまとめる。
 以上を予習シートとして、授業出席時に提出する。

事後学習

授業を受けて、復習をすること。
 授業と関連のある文章を自分で探して読み、理解をさらに深めること。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

一回目の授業で、どのよう授業を進めていくか相談して決めるので、できるだけ一回目の授業に出席すること。
 授業はすべて日本語で行う。

キーワード

オフィスアワー

随時。ただし、かならず事前にメールでアポイントメントをとること。

メールアドレス

najimay@eve.u-ryukyu.ac.jp

科目番号	日 502
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105434002
科目名[英文名]	会話 B1
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	知念 啓子
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の初級文型を使って、文を組み立てる練習をします。 ・日常の中のシンプルな会話をなめらかに話す練習をします。 ・ロールプレイ学習を通して、新しい語彙と表現を覚えます。 ・中盤からは日本人ボランティアの学生と一緒に活動します。 	

URGCC 学習教育目標

地域・国際性、コミュニケーション・スキル

達成目標

- (1)初級レベルのシンプルな会話が正しい日本語で話せる。[コミュニケーションスキル]
- (2)日常の身近なことについて情報の交換ができる。[コミュニケーションスキル][地域・国際性]
- (3)自分の気持ちや意見を簡単な言葉で説明することができる。[コミュニケーションスキル]
- (4)日本語の正しい発音とイントネーションで発話ができる。[コミュニケーションスキル]

評価基準と評価方法

評価基準

- ①初級レベルの会話を正しい文法を使って話すことができる。
- ②学習した語彙や表現を正しく使うことができる。
- ③状況にあった表現を使って会話することができる。
- ④ペアやグループ活動に積極的に参加できる。

評価方法

課題の提出 30 点

会話作りと発表 50 点

クラス活動への参加度 20 点

履修条件

- ・プレイスメントテスト(J-CAT/ Japanese Computerized Adaptive Test)を受けること。
- ・日本語の初級レベルの学習をしている者
- ・基本的な日常会話レベルの日本語ができる者
- ・クラス活動に積極的に参加する意志がある者

授業計画

- 第 1 回 自己紹介 シラバス説明 実力テスト(初級文法)
- 第 2 回 初級文法の確認①
- 第 3 回 初級文法の確認②
- 第 4 回 初級文法の確認③
- 第 5 回 初級文法の確認④
- 第 6 回 初級文法の確認⑤
- 第 7 回 個別会話チェックとフィードバック
- 第 8 回 ロールプレイ1
- 第 9 回 ロールプレイ2
- 第 10 回 ロールプレイ3
- 第 11 回 ロールプレイ4
- 第 12 回 ロールプレイ5
- 第 13 回 ロールプレイ6
- 第 14 回 ロールプレイ7
- 第 15 回 個別会話チェックと指導
- 第 16 回 中級レベルの学習法/まとめ

事前学習

初級文法の確認:まだ学んでいない文法は解説を読んで調べてくること。
ロールプレイ :トピックに関係のある言葉を集めてくること。

事後学習

授業で新しく学んだ言葉や表現を実際に使ってみること。

教科書にかかわる情報**教科書全体備考**

プリントを配付します。
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 月曜日:14時半~15時30分 火曜日:13時~14時
メールアドレス Keikochinen@mac.com

科目番号	日 981
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	水 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105467002
科目名[英文名]	Japanese History I
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	赤嶺 ゆかり
授業の形態 講義	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法 留学生(りゅうがくせい)とともに英語(えいご)で日本の歴史(れきし)を学ぶ(まなぶ)。事前(じぜん)課題(かだい)のテーマを調べてコンセプトマップを描き(かき)、多様(たよう)な文化(ぶんか)背景(はいけい)を持つ(もつ)受講生(じゅこうせい)間(かん)で協同(きょうどう)学習(がくしゅう)を行(おこな)う。知識(ちしき)を得(え)るだけではなく、歴史(れきし)への理解(りかい)を深め、深(ふか)い異文化(いぶんか)理解(りかい)を目指(めざ)す。ディスカッションと発表(はつぴょう)の前後(ぜんご)に講義(こうぎ)を行(おこな)う。	
URGCC 学習教育目標	
達成目標 (1) 日本(にほん)の歴史(れきし)について調べた(しらべた)情報(じょうほう)を英語(えいご)で他者(たしや)に伝え(つたえ)、自ら(みずから)の問題(もんだい)意識(いしき)に引き付けて(ひきつけて)考え(かんがえ)、ディスカッションができる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー] (2) 講義(こうぎ)や他者(たしや)の話(はなし)を聞き(きき)、その内容(ないよう)を客観的(きゃくかんて)	

き)に把握(はあく)し理解(りかい)し、英語(えいご)でディスカッションできる。[情報リテラシー][コミュニケーション・スキル]

(3) 自分(じぶん)の学習(がくしゅう)や体験(たいけん)について振(ふ)り返(かえ)り、その意義(いぎ)、感想(かんそう)、意見(いけん)が英語(えいご)で述(の)べられる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル][問題解決力][自律性]

(4) 互(たが)いの意見(いけん)を尊重(そんちょう)し、協力(きょうりょく)して課題(かだい)に取り組む(とりくむ)ことができる。[情報リテラシー][コミュニケーション・スキル][問題解決力]

評価基準と評価方法

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)について>

①資料(しりょう)や文献(ぶんけん)、体験談(たいけんだん)などを適切(てきせつ)に利用(りよう)し、情報(じょうほう)を収集(しゅうしん)、分析(ぶんせき)できる。(20点(てん))

②与(あた)えられたテーマについて、コンセプトマップを用(もち)いて視覚的(しかくてき)に記述(きじゆつ)できる。(10点(てん))

③クラスメートにも自分(じぶん)の言葉(ことば)で分(わ)かりやすく説明(せつめい)できる。(10点(てん))

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(1)(2)(3)(4)について>

④ディスカッションの場(ば)で、他者(たしや)の意見(いけん)に耳(みみ)を傾(かたむ)け、的確(てきかく)な質問(しつもん)とコメントができる。(20点(てん))

⑤ディスカッションの場(ば)で、自分(じぶん)の意見(いけん)を積極的(せっきよくてき)に発言(はつげん)している。(10点(てん))

<達成(たっせい)目標(もくひょう)(3)について>

⑥レポートにおいて問題意識(もんたいいしき)や意見を、詳細(しょうさい)かつ明確(めいかく)に記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))

⑦レポートが自分(じぶん)の言葉(ことば)で記述(きじゆつ)できる。(15点(てん))

評価(ひょうか)方法(ほうほう)

- ・事前(じぜん)課題(かだい)(コンセプトマップ)30%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)①②③)
- ・ディスカッションへの参加(さんか)20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤)
- ・学習(がくしゅう)記録(きろく)への記述(きじゆつ)(振り返り(ひりかえり)と質問(しつもん))10%・自己(じこ)評価(ひょうか)5%・クラスメートからの評価(ひょうか)5%
- ・レポート&プレゼンテーション10%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)
- ・学(が)期(き)末(まつ)レポート&プレゼンテーション20%(評価(ひょうか)基準(きじゆん)⑥⑦)

* 授業(じゆぎょう)を5回(かい)以上(いじょう)欠席(けっせき)した場合(ばあい)は、単位(たんい)を与(あた)えない。

* 2回(かい)の遅刻(ちこく)(30分(ぶん)以内(いない))は1回(かい)の欠席(けっせき)扱(あつか)いとする。

* 欠席(けっせき)の場合(ばあい)、1週間(しゅうかん)以内(いない)に限(かぎ)り、事前(じぜん)課題(かだい)の提出(ていしゆつ)を受(う)け付(つ)ける。連絡(れんらく)の上(うえ)、持参(じさん)すること。成績(せいせき)にカウントする(評価(ひょうか)基準(きじゆん)④⑤を除(のぞ)く)

履修条件

(日本人学生):

- (1) 英語で日常会話レベルの基礎的なコミュニケーションが取れること
- (2) 協働学習に積極的に取り組む意志があること
- (3) 派遣留学が決定しているまたは準備中の者、日本語教育副専攻の者を優先的に履修させる

授業計画 1. オリエンテーション 2. 縄文時代～弥生時代 3. 明日香時代 4. グループ発表① 5. 奈良時代 6. 平安時代① 7. 平安時代② 8. 平安時代③ 9. グループ発表② 10. 鎌倉時代① 11. 鎌倉時代② 12. 南北朝時代 13. 室町時代① 14. 室町時代② 15. グループ発表② 16. 全体での振り返りのディスカッション〔期末テスト〕
事前学習 1. コンセプト・マップ 2. リーディング
事後学習 1. 振り返りペーパー 2. リサーチプロジェクト
教科書にかかわる情報
教科書全体備考 ポートフォリオを準備してください。(ファイルなど) 適宜ハンドアウト配布します。
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 英語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 金曜日お昼時間、教室にて。 メールで一日前までに予約してください
メールアドレス yukari.akamine@gmail.com

科目番号	日 104
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 3

開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105407002
科目名[英文名]	文法 B2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	元山 由美子
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法	
日本語初級学習をひと通り終えた初中級学習者のための日本語読解・文法のクラスです。精読を通して語彙、漢字、文法力を養成し、読解力をのばします。精読で扱う各トピックについて意見交換を行い、学習した語彙、文型の運用と定着をはかります。	
URGCC 学習教育目標	
地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
(1)語彙・文法など基礎力を徹底して養い、ある程度まとまった文章が読める。[コミュニケーション・スキル]	
(2)実際のコミュニケーションの中でその文法がどのように使われているか知り、会話や作文などに使うことができる。[コミュニケーション・スキル]	
(3)各トピックについて新出語彙や表現を用いて意見交換できる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]	
評価基準と評価方法	
クイズ 20%	
中間テスト 20%	
期末テスト 20%	
授業参加度 20%	
課題提出 20%	
履修条件	
プレースメントテストを受け、受講が認められた者。この授業をとる学生は、オリエンテーションに必ず参加し、自分のレベルにあっているか、しっかり予習をすることができるか考えてから、登録してください。	
授業計画	
第1週 初級の復習	
第2週 初級の復習	
第3週 第5課(1)	
第4週 第5課(2)	
第5週 第5課まとめの問題	
第6週 第6課(1)	
第7週 第6課(2)	
第8週 第6課まとめの問題	
第9週 復習	
第10週 第7課(1)	
第11週 第7課(2)	
第12週 第7課まとめの問題	
第13週 第8課(1)	
第14週 第8課まとめの問題	

第15週 復習 第16週 期末試験 以上の授業計画は、履修人数や理解度によっても進め方を変更することがあります。
事前学習 新出語彙と漢字を予習をすること。 文章を音読し、すらすら読めるようにすること。
事後学習 新出語彙と漢字を復習をすること。 短作文の作成をすること。
教科書にかかわる情報 Try!日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語 ABK [著],ラテックス・インターナショナル 訳,スタジ オグラッド 録音・編集, アスク出版 2014 978-4-87217-902-6
教科書全体備考 『TRY!日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』ASK 教師作成プリント教材
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ 辞書を持ってきてください。 クラスメートと楽しく学びましょう。
キーワード
オフィスアワー 火曜日 13時～16時
メールアドレス yumimoto3@gmail.com

科目番号	日 212
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 1
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105421002
科目名[英文名]	日本文学作品鑑賞Ⅱ
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	大城 朋子 [Tomoko Ohshiro]
授業の形態	講義、演習又は実験
アクティブラーニング	学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生 が文献や資料を調べる
授業内容と方法	

- ①音読を全員で行い、語彙や表現を確認し理解を深めていく。
- ②作品のストーリー展開をまとめ、説明する(目標1&2)
- ③作品の社会背景や内容理解に必要な歴史的・社会・文化的な事象について調べ、発表する(目標2&目標3)。
- ④作者の意図や作品のテーマやメッセージ等について他の学生と意見交換を行い、各自の意見をまとめる。その際に、作者研究の視点をも交える(目標3及び目標4)。
- ⑤作品が映像作品にもなっている場合には、映像表現の手法からも作品理解を深め、作品によっては、創作まで行う場合もある。

URGCC 学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

1. 日本語で書かれた作品(詩歌、随筆、短編文学作品、文学作品他)を、語彙や表現を自律的に確認しながら内容理解を進めることができる[自律性]。
2. ペアワーク及びグループ・ディスカッション等の協働作業を通して、作品の背景や内容理解を更に深め、他の人の視点を学びながら自分の考えや意思を明確に表現することができるようになる[コミュニケーション・スキル及び社会性]。
3. 作品の背景となる地域や社会風景、時代設定や歴史の流れを把握し、学習者の自国作品の背景等と比較をしていくことができる[地域・国際性]。
4. 作者の意図やテーマ、そして作品の流れや事物の捉え方等を批判的に捉え、疑問・意見・批評・解釈等を論理的にまとめ、効果的にプレゼンができるようになる[問題解決力]。
5. 日本語作品への造詣を深めることで、作品を鑑賞し楽しむ力、そして表現力を豊かにしていくことができる。

評価基準と評価方法

授業態度(音読、ペアワーク・グループ・ディスカッションとその発表、出席率):35%

発表(調べ学習、内容理解、要旨)(単独及びグループ発表双方):35%

クイズ(各作品の語彙や内容に関わるクイズ)やレポート:30%

履修条件

日本語作品を味わい楽しむ姿勢が維持できること。また、各自の感性を大切にしながら、調べ学習を入念に行い、自分の意見をまとめ、他の履修生からも学ぶことができること。そして、課題や宿題は期日を守り、発表・ディスカッションは、予定の日にしっかりとできるよう準備を整えておくことが履修の条件。

授業計画

1. ガイダンスと意向調査、そして作品鑑賞への誘い。民話の選択と音読
2. 「民話」①ペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨をまとめる)
3. 「民話」②発表(時代・社会背景、作者の意図・内容の解釈等)とディスカッション
4. 「民話」③自国の民話の紹介(作者紹介を含む)
『耳無し芳一のはなし』(小泉八雲)導入 ①音読
5. 『耳無し芳一のはなし』②ペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨)
6. 『耳無し芳一のはなし』③発表とディスカッション 『銀河鉄道の夜』(宮沢賢治)導入 ①音読
7. 『銀河鉄道の夜』②音読とペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨)
8. 『銀河鉄道の夜』③発表とディスカッション
『伊豆の踊り子』(川端康成)導入 ①音読
9. 『伊豆の踊り子』②音読とペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨をまとめる)
10. 『伊豆の踊り子』③発表とディスカッション
11. 「随筆」を読む①(遠藤周作、村上春樹、よしもとばなな、他から学習者が選択する)←音読の練習
12. 「随筆」を読む②ペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨をまとめる)③発表とディスカッション

ン

13. 『南京と基督』(芥川龍之介)①朗読を聞く、そして、音読の練習 ②ペアワーク(調べ学習発表、内容理解、要旨)
14. 『南京と基督』(芥川龍之介)③』発表とディスカッション、
15. 映像作品鑑賞とまとめ、及び意見交換会、そして、レポートの書き方:ガイダンス他
16. 最終試験

事前学習

難解な語彙や表現の意味や読み方を調べ、また、作品を声に出して何度も読んで、授業に臨む。

事後学習

作者研究・作品の解釈・感想・意見等をまとめる。そして、発表や討論に繋げる。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

「民話」「随筆」「耳無し芳一のはなし』『銀河鉄道の夜』『伊豆の踊り子』『南京と基督』他、上記の「授業計画」に記載された作品が多岐にわたるため、必要に応じて教師がテキストを作成する。また、POWER POINT を用いて提示したりすることもある。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

キーワード

オフィスアワー

授業終了後に質問や相談を受けたい。

メールアドレス

tomokoo@nirai.ne.jp

科目番号	日 406
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105430022
科目名[英文名]	アカデミック日本語 C1F 02 組
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	ケリ 綾子
授業の形態	講義
アクティブラーニング	学生が議論する
授業内容と方法	この講義では日本語でレポート、小論文が書けるようになるために、書き方を学びます。書く能力を高めるために、練習問題に重点を置いた講義、演習をおこないます。

前半は文型や表記などに注目して、文章を書きます。その後、語彙や文章(読みやすい文、指示詞により接続した文、読み手への配慮をした文)を書きます。
そして最後に、レポートの書き方を学びます。

URGCC 学習教育目標

達成目標

- ① 書き言葉、だ／である体を使って小論文を書くことができる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性][自律性][情報リテラシー]
- ② 何を言いたいのか説明できる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- ③ 級友が何を主張したいのか質問し、助言や意見を言うことができる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- ④ 日本語のアカデミック・ライティングの基礎を習得する。[コミュニケーション・スキル][自律性][情報リテラシー]
- ⑤ 論理的な文章の展開方法を学び、それを意識して文章の構成を考えられるようになる。[コミュニケーション・スキル][自律性][情報リテラシー]

評価基準と評価方法

課題の提出 50%
クラス活動・参加度 30%
課題について書く 20%

履修条件

中級以上の日本語能力を備えていること。

授業計画

- 1回目 オリエンテーション 級友を知る
- 2回目 言葉の形の使い分け
- 3回目 呼応
- 4回目 文末表現の調整
- 5回目 ひらがなと漢字のバランス
- 6回目 カタカナの使い方
- 7回目 書き言葉らしさ
- 8回目 文の長さを読みやすさ
- 9回目 接続詞と文章の構成
- 10回目 読み手への配慮
- 11回目 振り返りと実践「書いて見よう」
- 12回目 レポートの基本的な書き方(1)
- 13回目 レポートの基本的な書き方(2)
- 14回目 立場のある文章の書き方
- 15回目 Eメールの書き方
- 16回目 振り返りとまとめ

事前学習

教室で配布する資料を読んできてください。

事後学習

課題の文章を完成させてきてください。
授業時間内に完成した場合は宿題はありません。

教科書にかかわる情報

留学生のための ここが大切 文章表現のルール 石黒圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク 2015

教科書全体備考

毎回練習シートを配布します。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考 参考資料は授業中に紹介します。
使用言語 日本語
メッセージ 毎回、書いたものを提出しますので、全回出席するようにしてください。
キーワード
オフィスアワー 必要に応じてもうけますので、申し出てください。
メールアドレス 1回目の授業でお知らせします。

科目番号	日 602
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 1～2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105442002
科目名[英文名]	漢字 B1
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	新城 直樹
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法 1) 漢字の成り立ちと意味、使い方 2) ワークシートで書きと読みの練習 3) クイズ 4) 宿題(書きと読み)	
URGCC 学習教育目標	
達成目標 ・基本的な漢字の読み書きができる[コミュニケーション・スキル][情報リテラシー] ・身のまわりにある漢字を探し、そこから文化・歴史・社会について調べることができる[自律性][地域・国際性]	
評価基準と評価方法 宿題・課題 20% クイズ 40% テスト 40%(中間 20%+期末 20%)	
履修条件 プレースメントテスト(J-CAT)と履修指導を受けた留学生	
授業計画 01. プレースメントテスト 02-07. 練習(クイズ) 08. 中間テスト	

09-15. 練習(クイズ) 16. 期末テスト
事前学習 予習を必ずやって、毎回クイズをしてください。
事後学習 宿題を必ずやって、出してください。
教科書にかかわる情報 基本漢字 500 凡人社 2015 BB19103826 9784893588821
教科書全体備考
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 月曜 午後(15:00-17:00) 木曜 午後(15:00-17:00)
メールアドレス

科目番号	日 306
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	木 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105425002
科目名[英文名]	聴解 C1F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	葦原 恭子
授業の形態	講義
アクティブラーニング	学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる
授業内容と方法	報道番組、文化的な話題、日本及び沖縄事情を取り上げ、ドラマ、映画、アニメ、ドキュメンタリー番組を聴解することにより、日本語聴解力の向上のみならず、異文化理解能力も養成する。
URGCC 学習教育目標	

<p>自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性</p> <p>達成目標</p> <p>1. 聴解におけるスキミング(ざっと聞いて大意を取る)能力、スキヤニング(情報を取りながら聴く)能力、マッチング(情報と情報を照らし合わせる)能力を身につける。[コミュニケーション・スキル][情報リテラシー]</p> <p>2. 報道番組を聴いて概要がわかるようになる。[社会性][地域・国際性]</p> <p>3. 自分が関心のあるテーマについて理解し、意見を述べるようになる。[自律性][地域・国際性][情報リテラシー][問題解決力][コミュニケーション・スキル]</p>
<p>評価基準と評価方法</p> <p>授業参加度 10%</p> <p>タスクシート提出 10%</p> <p>発表 20%</p> <p>聴解課題 10%</p> <p>期末テスト 40%</p> <p>日本語能力向上率 10%</p>
<p>履修条件</p> <p>規定の日本語理解力チェックテスト(J-CAT)を受験し、規定の点数に達している者で、指導教員の許可を得ている者。</p>
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 アンケート 聴解力チェックテスト</p> <p>第2回 聴解力チェックテストフィードバック 聴解練習オリエンテーション</p> <p>第3回～13回 タスク聴解練習</p> <p>第14回 学期末テスト</p> <p>第15回 学期末テストフィードバック</p> <p>※計画は変更になることもあります。必要に応じて、見学等に出かける可能性もあります。</p>
<p>事前学習</p> <p>聞き取りについては、極力事前に語句リストを配布するので、単語の意味を辞書で引いておくこと。</p>
<p>事後学習</p> <p>各番組の視聴が終了したときに、タスクシートを提出し、指導教員のチェック・添削を受けること。聴解力チェックテストのフィードバック教材に取り組むこと。</p>
<p>教科書にかかわる情報</p>
<p>教科書全体備考</p> <p>自主作成教材及び生教材を使用し、市販のテキストは使用しない。</p>
<p>参考書にかかわる情報</p>
<p>参考書全体備考</p>
<p>使用言語</p> <p>日本語</p>
<p>メッセージ</p>
<p>キーワード</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>留学生センター2階 212 研究室</p>

面談希望の学生は事前に口頭またはメールで予約すること。

メールアドレス

ashihara@lab.u-ryukyu.ac.jp

科目番号	日 702
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105446002
科目名[英文名]	口頭表現 C1F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	真島 知秀
授業の形態 実習	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法 ニュース及び報道番組、ニュース解説番組を聴解し、最近私が気になるニュース発表を行う。【個人活動】 グループでテーマを決めて討論を行いその結果を発表する。【グループ活動】 【発表／ディスカッション／グループ活動】	
URGCC 学習教育目標 自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標 1. 日本や自国の文化について、両者を比較しながら、日本語で簡単な紹介とディスカッションができるようになる。[コミュニケーション・スキル] 2. クラスメートの発表を注意深く聞き、的確な質問やコメントができるようになる。[コミュニケーション・スキル] 3. 自分の文化体験について振り返り、その意義、感想、意見が述べられるようになる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル] 4. 自国や日本の文化について、自分で調べ、正しい情報が選択できるようになる。[自律性]	
評価基準と評価方法 授業参加度 50% 期末テスト 30% 課題提出 20%	
履修条件 規定の日本語理解力チェックテストを受験し、規定の点数に達している者。	
授業計画 第1週 オリエンテーション・発表方法および順序説明 第2週 ニュース発表・自己紹介 第3週 ニュース発表・テーマ討論①(グループ話し合い) 第4週 ニュース発表・テーマ討論①(発表) 第5週 ニュース発表・テーマ討論②(グループ話し合い)	

- 第 6 週 ニュース発表・テーマ討論②(発表)
- 第 7 週 ニュース発表・テーマ討論③(グループ話し合い)
- 第 8 週 ニュース発表・テーマ討論③(発表)
- 第 9 週 ニュース発表・テーマ討論④(グループ話し合い)
- 第 10 週 ニュース発表・テーマ討論④(発表)
- 第 11 週 ニュース発表・テーマ討論⑤(グループ話し合い)
- 第 12 週 ニュース発表・テーマ討論⑤(発表)
- 第 13 週 ニュース発表・異文化摩擦分析①
- 第 14 週 ニュース発表・異文化摩擦分析②
- 第 15 週 ニュース発表・異文化摩擦分析③

第 16 週 期末テスト

事前学習

【ニュース発表について】

ニュースの発表については、遅くとも 1 週間前にニュースを選び、パワーポイント、配布資料、発表原稿を準備し、指導教員と相談すること。

ニュースの発表者は漢字が読めなくて困ることがないように読み方を全て調べておくなど、発表の準備をしておくこと。

ニュース発表の資料はなるべく授業前にメールを通じて配布を行うので、発表を聞く側も分からない表現を調べてきて授業に入るようにして、発表を聞き終わった後は何でもいいので必ず質問すること。

【テーマ討論について】

グループでの討論内容をまとめたら、グループの書記が担当者にメールを送ってチェックを受けること。

翌週にグループ討論の結果を発表するので、グループの発表者は事前に発表の準備をしておくこと。

事後学習

授業で取り上げられたテーマについて分からない点については調べておくこと。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

自主教材及び学習者作成の発表原稿を使用し、市販のテキストは使用しない。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

自主教材及び学習者作成の発表原稿を使用し、市販のテキストは使用しない。

使用言語

日本語

メッセージ

事前・事後学習で分からない単語を辞書で確認しておきましょう。

授業中はなるべく辞書を使わずに自分なりの表現で発言することを心がけましょう。

キーワード

オフィスアワー

水曜日 15:00～

2F 非常勤講師室<207 号>

メールアドレス

majima215@gmail.com

科目番号	日 304
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	木 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105423002
科目名[英文名]	聴解 B2F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	葦原 恭子
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法	
報道番組、文化的な話題、日本及び沖縄事情を取り上げ、ドラマ、映画、アニメ、ドキュメンタリー番組を聴解することにより、日本語聴解力の向上のみならず、異文化理解能力も養成する。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性	
達成目標	
1. 聴解におけるスキミング(ざっと聞いて大意を取る)能力、スキミング(情報を取りながら聴く)能力、マッチング(情報と情報を照らし合わせる)能力を身につける。[コミュニケーション・スキル][情報リテラシー]	
2. 報道番組を聴いて概要がわかるようになる。[社会性][地域・国際性]	
3. 自分が関心のあるテーマについて理解し、意見を述べるようになる。[自律性][地域・国際性][情報リテラシー][問題解決力][コミュニケーション・スキル]	
評価基準と評価方法	
授業参加度 10%	
タスクシート提出 10%	
発表 20%	
聴解課題 10%	
期末テスト 40%	
日本語能力向上率 10%	
履修条件	
規定の日本語理解力チェックテスト(J-CAT)を受験し、規定の点数に達している者で、指導教員の許可を得ている者。	
授業計画	
第 1 回 オリエンテーション 自己紹介 アンケート 聴解力チェックテスト	
第 2 回 聴解力チェックテストフィードバック 聴解練習オリエンテーション	
第 3 回～13 回 タスク聴解練習	
第 14 回 学期末テスト	
第 15 回 学期末テストフィードバック	
※計画は変更になることもあります。必要に応じて、見学等に出かける可能性もあります。	
事前学習	
聞き取りについては、極力事前に語句リストを配布するので、単語の意味を辞書で引いておくこと。	

事後学習 各番組の視聴が終了したときに、タスクシートを提出し、指導教員のチェック・添削を受けること。 聴解力チェックテストのフィードバック教材に取り組むこと。
教科書にかかわる情報
教科書全体備考 自主作成教材及び生教材を使用し、市販のテキストは使用しない。
参考書にかかわる情報
参考書全体備考
使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 留学生センター2階 212 研究室 面談希望の学生は事前に口頭またはメールで予約すること。
メールアドレス ashihara@lab.u-ryukyu.ac.jp

科目番号	日 402
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	月 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105428002
科目名[英文名]	作文 B1
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	知念 啓子
授業の形態	
アクティブラーニング	
授業内容と方法 この授業では「話す→考える→書く」を繰り返して、日本語の使い方を身につけます。自分の気持や考えなど、表現したいことを日本語でアウトプットできるようになることを目的とします。書いて終わりではなく、書いた文章を発表しあうピア・レスポンスを通して、自分の文章を振り返る時間もあります。読み手を意識して、わかりやすい文章を書く練習をして書く力をつけます。	
URGCC 学習教育目標 地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標 (1)正しい表記で文を書くことができる。[コミュニケーション・スキル] (2)既習の語彙や文型を正しく使って文が完成できる。[コミュニケーション・スキル]	

- (3)新しい語彙や文型を積極的に使うことができる。[コミュニケーション・スキル][自律性]
- (4)情報や自分の気持ち、考えを伝える文章が書ける。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- (5)読み手にわかりやすい文章が書ける。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]

評価基準と評価方法

評価基準

- ①表記(ひらがな・カタカナ・漢字)を正しく使うことができる
- ②既習の語彙や文法が正確に使える
- ③未習の語彙や文型、表現を文章に取り入れる努力をしている。
- ④読み手にわかりやすい文章が書ける。
- ⑤書く作業が自律的にできる。
- ⑥クラス活動に積極的に参加する。

評価方法

課題作文の提出 70 点

クラス活動(ピア・レスポンス)への参加度 30 点

履修条件

- ①プレイメントテスト(J-CAT/Japanese Computerized Adaptive Test)を受けること。
- ②表記(ひらがな・カタカナ)が正確に使えること。
- ③日本語の基礎レベルの文法がわかること。
- ④日本語で基本的な会話ができること。

授業計画

- 第 1 回 シラバス説明・初級文法確認①
- 第 2 回 初級文法確認②
- 第 3 回 トピック1「自己紹介」
- 第 4 回 トピック2「家族について」
- 第 5 回 トピック3「国について」
- 第 6 回 トピック4「今住んでいるところ」
- 第 7 回 トピック5「住んでいるところ(国)」
- 第 8 回 トピック1～5読み練習とディスカッション
- 第 9 回 トピック6「沖縄の好きな場所」
- 第 10 回 トピック7「私の一日」
- 第 11 回 トピック8「私の友だち」
- 第 13 回 トピック9「留学の目的と将来の夢」
- 第 14 回 トピック6～9読み練習とディスカッション
- 第 15 回 個別指導
- 第 16 回 まとめ

事前学習

各トピックに関連する語彙と表現を調べてくること。

事後学習

添削されたところを直して提出すること。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

プリントを配付します。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語 日本語
メッセージ 「書く」ことは、勉強したことを整理するいい練習です。正しい文が書けるようになれば、会話の力もつきます。
キーワード
オフィスアワー 月曜日:14:30~15:30、火曜日:12:00~13:00
メールアドレス keikochinen@mac.com

科目番号	日 803
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 5
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105451002
科目名[英文名]	ビジネス日本語 I
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	高江洲 由美子
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法	
前期の「ビジネス日本語 I」を更に発展させ、ビジネス場面で商談を円滑に行うことができるスキルの向上を目指す。また、「BJT ビジネス日本語能力テスト」に取り組むことにより、日本語コミュニケーション能力の更なる向上も目指す。	
URGCC 学習教育目標	
地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力	
達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本におけるビジネスの知識を更に深め、商談を適切に行うことができる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル] ・社内で使われる表現と、社外で使われる表現の違いを知り、適切なコミュニケーションをとることができる。[地域・国際性][コミュニケーション・スキル] ・「BJT ビジネス日本語能力テスト」の目的を知り、自らの日本語コミュニケーション能力を向上させることができる。[問題解決力] 	
評価基準と評価方法	
クイズ:	20%
参加度:	20%
発表:	15%
課題:	15%
期末試験:	30%
合計:	100%
(但し、全授業数の3分の1以上欠席した者へは単位を与えない)	

履修条件	
特になし	
授業計画	
第1週:オリエンテーション、当番決め(日直、係活動)、BJT テストについて	
第2週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』6課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 練習	
第3週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』6課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 解説	
第4週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』7課「電話を受ける」①、会話の練習、BJT 練習	
第5週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』7課「電話を受ける」②、会話の練習、BJT 解説	
第6週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』8課「電話をかける」①、会話の練習、BJT 練習	
第7週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』8課「電話をかける」②、会話の練習、BJT 解説	
第8週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』10課「応接のマナー」①、会話の練習、BJT 練習	
第9週:『映像で学ぶ ビジネス日本語』10課「応接のマナー」①、会話の練習、BJT 解説	
第10週:『商談のための日本語』1課「説明」①、会話の練習、BJT 練習	
第11週:『商談のための日本語』1課「説明」②、会話の練習、BJT 解説	
第12週:『商談のための日本語』2課「意見」①、会話の練習、BJT 練習	
第13週:『商談のための日本語』2課「意見」②、会話の練習、BJT 解説	
第14週:『商談のための日本語』3課「賛成」①、会話の練習、BJT 練習	
第15週:『商談のための日本語』3課「賛成」②、会話の練習、BJT 解説	
第16週:期末試験	
事前学習	
・授業終了時に次回の学習内容を提示するので、必ず予習しておくこと。	
事後学習	
・授業終了後の復習を十分に行うこと。	
教科書にかかわる情報	
『映像で学ぶ ビジネス日本語』② 株式会社日本映像教育社、教育事業部編著 凡人社 2004 『新装版 商談のための日本語』 米田隆介他著 スリーエーネットワーク 2006	
教科書全体備考	
参考書にかかわる情報	
参考書全体備考	
使用言語	
日本語	
メッセージ	
キーワード	
オフィスアワー	
随時	
メールアドレス	
ytakaesu1152000@yahoo.co.jp	

科目番号	日 106
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 1

開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105409002
科目名[英文名]	文法 C1F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	元山 由美子
授業の形態	
講義、演習又は実験	
アクティブラーニング	
学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる	
授業内容と方法	
【授業内容】 これまで習得した日本語能力を土台に、さらに中級レベルの文法と運用能力を身につけます。	
【方法】	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ことば・文型・表現・漢字を予習する。 2. 授業で教師の解説を聞き、使い方を確認する。 3. 文章を音読し、正しく理解する練習をする。 4. 各トピックについて意見交換を行う。 5. クイズをし、理解できているかどうか確認する。 	
URGCC 学習教育目標	
自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、専門性	
達成目標	
<p>①日本語を使用する際に役立つ日本語文法の正確な知識を身につけることができる。[自律性][専門性][コミュニケーション・スキル]</p> <p>②やや抽象的な内容について社会的・文化的知識を活用して理解したり表現したりすることができる。[コミュニケーション・スキル][社会性][地域・国際性]</p> <p>③作文や会話の中で微妙な表現の違いを使いこなすことができる。[コミュニケーション・スキル]</p>	
評価基準と評価方法	
<p>テスト 60%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>提出物 10%</p>	
履修条件	
<p>初中級レベルの語彙・文法を習得していること。</p> <p>ペア、グループ学習に積極的に参加する意志があること。</p> <p>この授業をとる学生は、オリエンテーションに必ず参加し、自分のレベルにあっているか、しっかり予習をすることができるか考えてから、登録してください。</p>	
授業計画	
第1回 ガイダンス、文法判断テスト	
第2回 文法判断テスト解答・解説	
第3回 1課	
第4回 1課まとめの問題	
第5回 2課(1)	
第6回 2課(2)	
第7回 2課まとめの問題	
第8回 復習テスト	

第9回 3課(1)
 第10回 3課(2)
 第11回 3課まとめの問題
 第12回 4課(1)
 第13回 4課(2)
 第14回 4課まとめの問題
 第15回 復習
 第16回 期末テスト
 * 講義要項や Web シラバスの記載内容は、登録された受講生の人数や理解度に応じて、変更する可能性がある。

事前学習

文型・表現の意味・用法を確認し、問題を解いておくこと。
 わからない語彙の意味や漢字の読み方を調べておくこと。

事後学習

授業で学んだ表現や語彙を使って文を作成すること。

教科書にかかわる情報

TRY (トライ) !日本語能力試験 : 文法から伸ばす日本語 = Try! Japanese language proficiency test
 ABK (アジア学生文化協会) [著] アスク出版 2014 978-4-87217-903-3 CD Book

教科書全体備考

プリントを配付する。

参考書にかかわる情報

どんなときどう使う日本語表現文型 500 : 日本語能力試験 N1~N3 の重要表現を網羅 友松悦子, 宮本淳, 和栗雅子著 アルク 2010 978-4-7574-1890-5
 新完全マスター文法日本語能力試験 N2 友松悦子, 福島佐知, 中村かおり著 スリーエーネットワーク 2011 978-4-88319-565-7
 日本語文型辞典 グループ・ジャマシイ編著 くろしお出版 1998

参考書全体備考

必要に応じて紹介する。

使用言語

日本語

メッセージ

漢字の読み書きは各自で練習してください。

キーワード

オフィスアワー

火曜日の 13 時~16 時

メールアドレス

yumimoto3@gmail.com

科目番号	日 202
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	水 3
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105413002

科目名[英文名]	読解 B1
単位	1
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	真島 知秀
授業の形態	
講義	
アクティブラーニング	
授業内容と方法	
初級から中級レベルへ進むために必要な表現および文型を確認することで読む能力を身につける。	
URGCC 学習教育目標	
自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル	
達成目標	
1.日本語文法を自律的に学習できる力をつける [自律性]	
2.日常的な場面で既習文型をある程度正確に使用できる [コミュニケーション・スキル]	
3.教科書のテキストから、必要情報をよみとり、大意がとれる [自律性]	
4.テキストから日本の文化的特徴を読み取り、自国の文化との違いについて議論できる [地域・国際性]	
評価基準と評価方法	
期末テスト 40%	
課題提出 30%	
授業参加度 30%	
履修条件	
授業計画	
第1週 身近な話題	
第2週 知りたい情報をすばやく見つける	
第3週 プロセスをつかむ	
第4週 日本人の名字	
第5週 友達からのメール	
第6週 口コミサイト	
第7週 バスツアーのパンフレット	
第8週 学校のホームページ	
第9週 日本の家庭料理	
第10週 和室の工夫	
第11週 日本のお弁当	
第12週 日本の昔話	
第13週 生教材にチャレンジ①	
第14週 生教材にチャレンジ②	
第15週 まとめ	

第16週 期末テスト	
事前学習	
極力事前に語句リストを配布するので、単語の意味を辞書で引いておくこと。	
事後学習	

授業中に理解できなかった語彙や表現は意味を確認しておくこと。
教科書にかかわる情報 たのしい読みもの 55 できる日本語教材開発プロジェクト著 アルク 2013 978-4757422773 できる日本語準拠 / できる日本語教材開発プロジェクト著
教科書全体備考 教科書以外のテーマに関するプリントを作成し配布する。
参考書にかかわる情報 「読み」への挑戦 伊藤博子 [ほか]共著, くろしお出版 1993 978-4874240649
参考書全体備考 教科書以外のテーマに関するプリントを作成し配布する。
使用言語 日本語
メッセージ 理解度を深めるために読んだ後に自分の考えを簡単に述べるなど、みんなで活動できる機会も設けます。 事前・事後学習で分からない単語を辞書で確認しておきましょう。 授業中はなるべく辞書を使わずに読み進めることを心がけましょう。
キーワード
オフィスアワー 水曜日 15:00~ 2階非常勤講師室<207号>
メールアドレス majima215@gmail.com

科目番号	日 206
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	金 4
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105417002
科目名[英文名]	読解 C1F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	中川 麻美
授業の形態 講義、演習又は実験	
アクティブラーニング 学生が議論する、学生が自身の考えを発表する	
授業内容と方法 様々な文型・表現を、精読を通して学習し、使いこなすことを目指します。読んだ内容を発展させ、ディスカッション、聴解練習、作文も適宜取り入れます。	
URGCC 学習教育目標 自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力	
達成目標 (1)身近な事柄について、いくつかの段落で構成された長めの文章を読み、内容を正確に理解でき	

る。[コミュニケーション・スキル][情報リテラシー]

(2)未習語彙を含む生の長文テキストを読み、大意がとれる。[コミュニケーション・スキル][問題解決力]

(3)多様な表現を使って、自分の体験談や意見を述べるができる。[コミュニケーション・スキル]

(4)クラスメイトの意見を注意深く聞き、的確な質問や反論、コメントができる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]

(5)自国と日本や他の文化における様々な現象について、文化差を認識し、異文化理解を深める。[地域・国際性][社会性]

評価基準と評価方法

- ・事前・事後学習と課題 20%
- ・ディスカッション等教室活動への参加度 20%
- ・各課クイズ 20%
- ・中間テスト 20%
- ・期末テスト 20%

履修条件

授業計画

1. オリエンテーションなど
2. カタカナ語
3. 鉄腕アトムを目指せ
4. 食生活を見直そう
5. 4つ目のR
6. プレーパーク
7. 実感
8. 中間テスト・ふりかえり
9. 原因はどこに？
10. 言葉の世界を楽しむ
11. あいまいな境界線
12. マニュアルとユーモアセンス
13. 税金に関心がありますか
14. 系統樹とその先
15. まとめ・復習
16. 期末テスト

事前学習

Reading Tutor、文型辞典を利用し、本文を読んでおくこと
新出重要語彙、「文型と表現」を解いておくこと

事後学習

作文を書いて次回の授業で発表できるように準備すること

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

ニューアプローチ中上級日本語[完成編]／小柳昇著◆(語文研究社, 2002) ISBN:4931315127

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

教師と学習者のための日本語文型辞典／グループ・ジャマシイ編著
(くろしお出版, 2000) ISBN:4874241883
どんな時とう使う日本語表現文型辞典:英・中・韓 3カ国語訳付き／友松悦子, 宮本淳, 和栗雅子著(アルク 2010) ISBN:4757418868

使用言語 日本語
メッセージ
キーワード
オフィスアワー 金曜日 13:00- 2階 非常勤講師室
メールアドレス asanakagawa @ gmail.com

科目番号	日 506
和英区分名	日本語
開講年度	2018
期間名	後学期
曜日・時限	火 2
開講学部名	共通教育等科目
講義コード	105438002
科目名[英文名]	会話 C1F
単位	2
担当教員コード	
担当教員[ローマ字表記]	知念 啓子

授業の形態

アクティブラーニング

授業内容と方法

- ・日本語初級レベルの学習を修了した学生のための会話のクラスです。
- ・会話場面に応じた適切な表現とその使い分けを学習します。
- ・ロールプレイで会話を作る練習をします。
- ・音読練習でなめらかに話す練習をします。
- ・オノマトペで自然な日本の表現を学びます。
- ・「発表」を通して聞く人にわかりやすい話し方を学びます。

URGCC 学習教育目標

地域・国際性、コミュニケーション・スキル

達成目標

- (1)日本語の初歩的な会話が正しくできる。[コミュニケーション・スキル]
- (2)日常のいろいろな場面で自然な会話ができる[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- (3)自分の感情や意見を説明することができる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- (4)相手によって話し方をうまくコントロールできる。[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- (5)日本語の正しい発音とイントネーションで発話ができる。[コミュニケーション・スキル]
- (6)適した語彙や表現が出てこないときに別の言葉を使って会話を切り抜けることができる[コミュニケーション・スキル][地域・国際性]
- (7)聞いている人にわかりやすく発表することができる。[コミュニケーション・スキル]
- (8)ディスカッションの内容をまとめることができる。[コミュニケーション・スキル]

評価基準と評価方法

評価基準

- ①学習した語彙や表現を正しく使うことができる。

- ②ロールプレイの会話を作ることができる。
- ③状況にあった表現を使って会話することができる。
- ④基本的な会話がなめらかにできる。
- ⑤聞いている人にわかりやすく発表ができる。

評価方法

- ・課題(グループで話し合ったディスカッションのテーマについて自分の意見を書いて提出する) 40点(4点×10回)
- ・発表(わかりやすさ・暗記度・なめらかさ)50点
- ・クラス活動への参加度(10点)

履修条件

- ・プレイスメントテスト(J-CAT/ Japanese Computerized Adaptive Test)を受けること。
- ・日本語の初級レベルの学習を修了した者
- ・日常会話レベルの日本語ができる者
- ・クラス活動に積極的に参加する意志がある者

授業計画

第1回 シラバス説明 初級文法確認①(筆記・口頭)

第2回 初級文法確認②(筆記・口頭)

第3回～第12回

- ・グループディスカッション



- ・オノマトペ



- ・シャドウイング



- ・ロールプレイ

第13回 発表

第14回 発表

第15回 発表

第16回 まとめと個別指導

事前学習

ディスカッションのテーマに関連した語彙や表現を調べてくる。

事後学習

グループで話し合ったディスカッションのテーマについて自分の意見を書いて提出する。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

プリントを配付します。

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

キーワード

オフィスアワー

月曜日 : 14:30 ~ 15:30 火曜日 : 13:00 ~ 14:00

メールアドレス

keikochinen@mac.com